Desktop Policy and Desktop Migration

ユーザーガイド

バージョン R91

日本語

June 10, 2015

Agreement

The purchase and use of all Software and Services is subject to the Agreement as defined in Kaseya's "Click-Accept" EULATOS as updated from time to time by Kaseya at http://www.kaseya.com/legal.aspx. If Customer does not agree with the Agreement, please do not install, use or purchase any Software and Services from Kaseya as continued use of the Software or Services indicates Customer's acceptance of the Agreement."

目次

Desktop Policy および Desktop Migration の概要

2 つの異なる製品である **Desktop Policy** および **Desktop Migration** は、VSA 内の同じ **Desktop Management** モジュールにインストールされます。

- **Desktop Policy**（KDP） - これは、プリンターやマップ済みドライブの定義および配置を行うためのグループベースのポリシー、および電源管理オプションの定義および配置を行うためのシステム全体のポリシーを含みます。さらに、**Desktop Policy** を使用することで、デスクトップ標準パッケージの定義と配置ができます。デスクトップスタンダードパッケージは、IT スタッフおよび MSP に、組織全体で一貫性を維持する便利な方法を提供し、会社の標準の強制を可能にします。光学ドライブ、USB ドライブ、Windows Defender、およびアクションセンターをリモートから有効/無効にすることもできます。
- **Desktop Migration**（KDM） - ローカルユーザーのアカウント、ユーザー設定、アプリケーション設定、およびシステム設定のバックアップ、復元、および移行を行います。スタッフやユーザーは、システムにあるブラウザのブックマークやカスタムのショートカットを含めて、ユーザー設定、アプリケーション設定、およびシステム設定のカスタマイズに膨大な時間を費やします。OS やコンピュータのハードウェアをアップグレードする際にカスタマイズや設定を保存する場合、エラーが起きやすく、特に複数のマシンを一度に移行する場合は管理が困難です。**Desktop Migration** の移行では、プロセス全体が自動化され、スタッフやユーザーの貴重な時間を節約できます。

注：「システム要件」『http://help.kaseya.com/WebHelp/EN/VSA/9010000/reqs/index.asp#home.htm を見て 』を参照してください。

機能	説明	Desktop Policy でインストールされる	Desktop Migration でインストールされる
移行可能 『30 ページ 』	エンドポイントが Windows 7 または他のオペレーティングシステムへアップグレードする際の簡単なコストのまとめを提供します。	●	●
ステータス 『10 ページ 』	Desktop Policy および Desktop Migration のステータスダッシュボードを表示します。	●	●
現在の状態 『11 ページ 』	KDPM クライアントがインストールされている各マシンについて、KDPM の詳細を表示します。	●	●
電源 『12 ページ 』	電源ポリシーを作成および管理し、選択したマシン ID に適用します。	●	
マップドライブ 『16 ページ 』	マップドライブポリシーを作成および管理し、選択したマシン ID に一様に適用します。	●	
プリンター 『19 ページ 』	プリンター接続ポリシーを作成および管理し、選択したマシン ID に一様に適用します。	●	

デスクトップ 『21 ページ 』	選択したマシン ID にデスクトップスタンダードパッケージをインストールします。	●	
光学ドライブ 『26 ページ 』	管理マシンの DVD ドライブおよび CD-ROM ドライブを有効/無効にします。	●	
USB ドライブ 『26 ページ 』	管理マシンの USB ドライブを有効/無効にします。	●	
Windows Defender 『27 ページ 』	管理マシンの Windows Defender を有効/無効にします。	●	
アクション・センター 『27 ページ 』	管理マシンのアクションセンターを有効/無効にします。	●	
スケジュール 『6 ページ 』	オフラインであるマシンの電源をスケジュールします。	●	
警報 『8 ページ 』	[Wake On LAN] > [スケジュール]を使用してスケジュールした Wake On LAN イベントについて、そのイベントの成功または失敗に対応する警報を作成します。	●	
バックアップ 『30 ページ 』	選択したマシン ID のすべてのローカルユーザーのアカウントの設定の一度または繰返しのバックアップをスケジュールします。		●
復元する 『34 ページ 』	1 人または複数のローカルユーザーのアカウントを単一のターゲットマシン ID に復元します。最初に、復元元となるソースマシンを選択します。		●
移行 『37 ページ 』	ユーザー設定および 1 人または複数のローカルユーザーのアカウントの選択したマシン ID への復元をスケジュールします。		●
管理 『40 ページ 』	Desktop Migration のバックアップに関連するすべてのタスクをマシン ID 別およびバックアップ別にまとめて、一元管理できる場所を提供します。		●
インストール/削除 『44 ページ 』	選択したマシンに KDPM クライアントをインストールします。	●	●
デスクトップパッケージ 『23 ページ 』	デスクトップパッケージを作成します。	●	
データ設定 『40 ページ 』	管理される設定ファイルを保存するディレクトリを指定します。		●
ポリシー警報 『27 ページ 』	ポリシーイベントの成功または失敗に応じて警報を作成します。	●	
移行警報 『41 ページ 』	移行イベントの成功または失敗に応じて警報を作成します。		●
最大ログエージ 『46 ページ 』	ログデータを保持する日数を指定します。	●	●
ログ 『47 ページ 』	選択したマシン ID の KDPM ログデータを表示します。	●	●

Desktop Policy および Desktop Migration のモジュール要件

Kaseya Server

- Desktop Policy R91 モジュールおよび Desktop Migration R91 モジュールを使用するには、VSA R91 が必須です。
- インストールが不可欠です。顧客サポートの要求により使用できるようになります。
- 両方のモジュールは VSA 内の同じデスクトップ管理モジュールにインストールします。

各管理マシンの要件

- 256 MB の RAM
- 30 MB の空きディスクスペースに加えて、バックアップ対象のデータ量に等しい追加空きディスクスペース
- Microsoft Windows Server 2003、2003 R2、2008、2008 R2、2012、2012 R2
- Microsoft Windows XP SP3、Vista、7、8、8.1

注：概要の「システム要件」『**http://help.kaseya.com/WebHelp/EN/VSA/9010000/reqs/index.asp#home.htm** を見て 』を参照してください。

クライアントとログファイルを構成

インストールするものが **Desktop Policy** と **Desktop Migration** のいずれか、あるいは両方かに関わらず、次に示すモジュールのインストールおよび設定のステップが適用されます。

1. [エージェント] > **[資格情報の設定]** 『**http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#352.htm** を見て 』を使用して、**Desktop Policy** および **Desktop Migration** のクライアントに、マシン ID に対応する資格情報が設定されている必要があります。一般に、マシンを管理する場合、ドメイン管理者証明書を使用します。
2. **[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用して、ソースおよびターゲットのマシンに **Desktop Policy** および **Desktop Migration** のクライアントをインストールします。
3. オプションとして、**[ログの最大保持期間]** 『46 ページ 』を使用して、KDPM のログファイルを保持するデフォルトの最大日数を変更します。

Desktop Policy の構成

Desktop Policy が実行できるタスクは、次の 3 つの一般的なカテゴリーに分類できます。

- **ポリシー** - 電源管理、ディレクトリのマッピングやプリンターの**特別な** ユーザー設定ポリシーを定義、適用します。

- **デスクトップスタンダード** - 複数のマシンに適用される**標準の**ユーザー設定を定義、適用します。
- **「Wake On LAN」** - マシンの**電源の起動**をスケジュールし、電源起動の成功または失敗の警報を作成します。

構成ポリシー

3 つの特別な **Desktop Policy** ポリシーを個別に定義して適用できます。

- 電源管理
  1. マシンに電源ポリシーを適用する前に、**ステータス** 『10 ページ 』ページを使用して、マシンの既存の電源設定を既に定義されている電源ポリシーと比較します。**Desktop Policy** の電源管理機能の使用を検討している顧客に、このページを表示できます。
  2. **電源** 『12 ページ 』ページを使用して、電源ポリシーを定義して、ターゲットマシンに適用します。電源ポリシーは、グループ ID では*定義されません*。なぜなら、同じ電源ポリシーは複数の顧客に適応されるからです。
  3. **ステータス** 『10 ページ 』ページを再チェックして、マシンが新しい電源ポリシーまたは変更された電源ポリシーに適合しているかを表示します。オプションで、[**適合**]のドロップダウンリストから[指定された電源ポリシー]項目を選択して、マシンに適用している電源ポリシーに適合していないマシンを特定します。
- マップドライブ
  - **現在のステージ** 『11 ページ 』ページを使用して、マシン ID およびユーザー別に、現在のマップドライブを確認します。
  - **マップドライブ** 『16 ページ 』ページを使用して、マップドライブを定義して、ターゲットマシンに適用します。マップドライブは通常は顧客のサイトに固有なので、マップドライブポリシーはグループ ID によって定義されます。
- プリンター
  - **現在のステージ** 『11 ページ 』ページを使用して、マシン ID およびユーザー別に、プリンターを確認します。
  - **プリンター** 『19 ページ 』ページを使用して、プリンターポリシーを定義して、ターゲットマシンに適用します。プリンターは通常は顧客のサイトに固有なので、プリンターポリシーはグループ ID によって定義されます。
- 光学ドライブ - マシン ID 別に有効/無効にします。
- USB ドライブ - マシン ID 別に有効/無効にします。
- Windows Defender - マシン ID 別に有効/無効にします。
- アクションセンター - マシン ID 別に有効/無効にします。

デスクトップスタンダードパッケージの構成

デスクトップスタンダードパッケージは、通常は同じ会社内にある複数のマシンに渡って統一的にユーザー設定を適用するために作成されたインストールファイルです。たとえば、会社はその会社に固有のデスクトップアイコンやそれぞれのユーザーのマシンで常に使用可能であるインターネットのブックマークを必要とするかもしれません。

1. **デスクトップパッケージ** 『23 ページ 』ページを使用して、デスクトップスタンダードパッケージを作成します。通常は、デスクトップ標準パッケージはグループに固有ですが、オプションで`<All Groups>`のデスクトップ標準パッケージを作成できます。
2. **デスクトップ** 『21 ページ 』を使用して、1 台または複数のターゲットマシンにデスクトップスタンダードパッケージを適用します。

「Wake On LAN」の構成

1. [Wake on LAN] > **[スケジュール]** 『6 ページ 』を使用して、マシンの電源投入をスケジュールします。
2. [Wake on LAN] > **[警報]** 『8 ページ 』を使用して、電源投入時の成功または失敗の通知を受信します。

vPro の構成

1. **[vPro 管理]** 『8 ページ 』 > [**vPro を検出**]を使用して、マシンが vPro マシンかどうかを検出します。

   注：vPro 対応マシンのバージョンを調べる方法については、**Order an Intel® vPro™ Technology "Activation-Ready" PC or WS** 『**http://communities.intel.com/docs/DOC-2033** を見て 』を参照してください。

2. [vPro] > [**vPro を有効にする**]を使用して、vPro 対応マシンを有効にします。
3. VSA が検出する前に、vPro マシンが有効 *（アクティブ）* になっている場合、vPro パスワードが既に存在しています。[vPro] > [**vPro パスワードの設定**]オプションを使って、同じ vPro パスワードを入力します。このパスワードを使用することにより、vPro マシンおよび VSA の両方で既知の vPro パスワードをリセットすることもできます。**Desktop Management** を使用したことで初めて vPro マシンが有効になった場合には、一致するパスワードが自動的に設定されます。

   注：マシンに割り当てられている vPro パスワードを表示するには、[**AMT パスワード**]列を[vPro]ページに表示します。

4. [vPro 管理] > [**電源管理**]のスケジュールオプションを使用して、電源管理タスクをスケジュールします。
5. vPro マシンでローカルにのみ表示される同意コードを入力して、KVMView のリモート vPro セッションを開始します。**KVMView** を vPro リモートコントロール、BIOS へブート、および ISO からブートに使用できます。
6. [vPro 管理] > [vPro プロキシの作成]を使用して、ファイアウォールの背後にあるマシンへのアクセスを可能にします。
7. **vPro プロキシマシンにセキュリティ証明書を構成** 『**https://helpdesk.kaseya.com/entries/33171573** を見て 』して、リモート vPro セッションを開始するために vPro マシンのローカルにのみ表示される同意コードを入力する操作を省略します。

Desktop Migration の構成

Desktop Migration は、各ユーザーの**個別の**ユーザー設定およびローカルユーザーのアカウントをバックアップし、それらの復元または移行を行います。

最初は、次の機能を使用して **Desktop Migration** を構成します。

- **移行可能** 『30 ページ 』を使用して、マシンの Windows 7 または他のオペレーティングシステムへのアップグレードのコストおよびエンドポイントの準備を確認します。
- 各ユーザーの**データ設定** 『40 ページ 』を保存するデータ場所を定義します。通常は、これはソースマシンとターゲットマシンの両方がそれぞれの証明書でアクセスできるネットワークディレクトリになります。

- **バックアップ** 『30 ページ 』を使用して、選択したマシン ID のすべてのローカルユーザーのアカウントの設定の一度または繰返しのバックアップをスケジュールします。
- 移行イベントの成功または失敗に応じて**移行警報** 『41 ページ 』を作成します。

次に、以下のどれかを使用して、個別ユーザーの設定を復元または移行します。

- オプションで、**復元** 『34 ページ 』を使用して、 1 つまたは複数のローカルユーザーのアカウントを単一のターゲットマシン ID に複合するか、または...
- オプションで、**移行** 『37 ページ 』を使用して、 1 つまたは複数のローカルユーザーのアカウントをソースマシンから複数のターゲットマシンに移行します。オプションで、ターゲットマシンでローカルユーザーのアカウントを名前変更または追加します。

別の方法として、**[管理]** 『40 ページ 』ページから、**Desktop Migration** のバックアップ、復元、および移行に関連するすべてのタスクを、マシン ID 別およびバックアップ別でまとめて一元管理できます。

[Wake on LAN] > [スケジュール]

Desktop Management > [Wake on LAN] > [スケジュール]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

スケジュールページは、オフラインであるマシンの**電源をオン**にします。通常は、エネルギーを節約するために夜はマシンをオフにして、メンテナンスを実行するために夜中に電源をオンにします。自動電源オンは、スケジュールされた「Wake on LAN」コマンドで実行します。これは、起動するそれぞれのマシンに対して一意の識別子と特別に暗号化されたメッセージを、業界標準のパケット*(マジックパケット)*でネットワークに送信する同じ LAN にアクティブなエージェントを持つことで、これを達成します。次の 2 つの前提条件があります :

- それぞれのマシンが、次に 2 つのテクノロジーのどちらを使用して、リモートでの電源オンをサポートしていること。
  - マシンが、vPro-対応マシンであること。
  - 可能な場合は、PC のマザーボードの BIOS で「Wake on LAN 」設定が有効になっていること。この設定によって、たとえマシンの電源がダウンしていても、マシンのネットワークカードへの電源が有効になります。
- 対象となる LAN には、「マジックパケット」を送信するコントローラとして動作する、マシンが少なくとも 1 台はオンラインになっていなければなりません。

「Wake on LAN 」アクションの詳細は、各マシンのエージェント手順ログで見つかります。[エージェント] > [**エージェントログ**]を参照してください。

vPro

Wake On LAN については、vPro がマシンを起動する方法をデフォルトで使用します。vPro が有効になっていない場合、またはマシンが vPro に対応していない場合には、vPro を使用しない方法を使用してマシンを起動します。vPro の方法を使用する利点は、[vPro]ページからリモートで vPro を有効にすることができ、vPro が有効になったことをそのページで確認できることです。Wake-on-LAN は BIOS を使用して手動で有効にする必要があり、BIOS を手動でチェックすることによってのみ確認できます。また、Wake-on-LAN を使用するには、同じサブネット上にターゲットとして別のマシンが必要です。マシンがパブリック IP アドレスをもっているか、同じファイアウォール内の異なるサブネットに別のマシンがある場合には、vPro はインターネット経由で動作可能です。Wake-on-LAN 警報は vPro のマシンの起動方法には適用されません。

アクション

このページは以下のアクションを提供します：

- **スケジュール** - クリックすると、[**スケジューラ**]ウインドウが表示されます。このウインドウは、VSA 全体でタスクのスケジュールに使用します。タスクを一度、または定期的にスケジュールします。再発生のタイプ（一度のみ、毎時間、毎日、毎週、毎月、毎年）が、それぞれの再発生のタイプに適した追加オプションを表示します。定期的スケジューリングには、再発生の開始日と終了日の設定が含まれます。各スケジュールタスクですべてのオプションが使用できるわけではありません。次のオプションがあります。
  - **スケジュール** - **配布ウインドウ** - ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、あるタスクの実行時間が午前 3:00 にスケジュールされ、配布期間が 1 時間の場合、タスクが午前 3:00～午前 4:00 のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。
  - **オフラインなら省く** - これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシンがオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
  - **オンラインなら電源起動** - Windows のみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの電源をオンにします。同じ LAN 上で、Wake-On-LAN または vPro と、他の運営しているシステムが必要です。
  - **以下の時間範囲を除外する** - **配布期間にのみ適用されます。**チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。
- **すぐに起動** - マシンをすぐに起動します。
- **キャンセル** - これらのスケジュールオプションをキャンセルします。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます。

- オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

次回の起動

このマシンの起動が計画されている次回の時間です。

前回の起動

前回、このマシンに WOL メッセージが送信されたときです。

期間

再発の場合、タスクを再実行する前に希望するインターバルを表示します。

[Wake on LAN] > [警報]

Desktop Management > [Wake on LAN] > [警報]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

[**警報**]ページでは、**[Wake on LAN] > [スケジュール]**『6 ページ 』を使用してスケジュールした Wake On LAN イベントについて、その成功または失敗に応じた警報を作成します。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。 このページにマシンを表示するには、**[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用してマシンに **Desktop Policy** クライアントがインストールされている必要があります。

> **注：** Wake-on-LAN 警報は **vPro** のマシンの起動方法 『6 ページ 』には適用されません。

警報を作成するには

1. これらのチェックボックスのいずれかをチェックすると、警報条件の発生時に、対応するアクションが実行されます。
   - **ア**ラームを作成
   - **チ**ケットを作成
   - **ス**クリプトを実行
   - **E** メール受信者
2. 追加の E メールパラメータを設定します。
3. 以下のうちのどれかを選択します：
   - `Wake on LAN 成功`
   - `Wake on LAN 失敗`
4. 警報設定を適用するマシン ID をチェックします。
5. **設定**をクリックして、選択したマシン ID に警報設定を割り当てます。

警報設定をコピーするには

1. [すべての設定のコピー元]を選択します。
2. [*（クリックして選択）*]をクリックして、警報設定のコピー元にする Desktop Policy の管理マシンを選択します。
3. 警報設定を適用するマシン ID をチェックします。
4. **設定**をクリックして、選択したマシン ID に警報設定を割り当てます。

アラームの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとアラームが作成されます。アラームは、[モニター] > [ダッシュボードリスト]、[モニター] > [アラームサマリ]、および[情報センター] > [レポーティング] > [レポート] > [ログ] > [アラームログ]に表示されます。

チケットの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとチケットが作成されます。

スクリプトを実行する

チェックした場合、警報条件が発生するとエージェント手順が実行されます。実行するエージェント手順を選ぶには、**エージェント手順の選択**リンクをクリックしなければなりません。**このマシン ID** リンクをクリックすることで、マシン ID の特定レンジでエージェント手順を作動させることができます。指定するこれらのマシン ID を、警報条件が発生したマシン ID と一致させる必要はありません。

E メールを送信する。

チェックした場合、警報条件が発生すると、E メールが指定 E メールアドレスに送信されます。

- **現在のリストに追加**ラジオボタンオプションを選択し、 **適用**をクリックすると、警報設定が適用され、以前に指定された E メールアドレスはそのままで、指定された E メールアドレスが加えられます。
- **リストの置き換え**ラジオボタンオプションを選択し、**適用**をクリックすると、警報設定が適用され、指定された E メールアドレスが、現存の E メールアドレスと置き換わります。
- **取り除く**をクリックすると、**どの警報パラメータも修正することなく**全 E メールアドレスが取り除かれます。
- E メールは、警報で指定された E メールアドレスに Kaseya Server から直接送信されます。[**発信元アドレス**]を設定するには、[システム] > [アウトバウンド E メール]を使用します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます。

- オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

警報名

各マシン ID にあり得る警報をリストアップします。

応答

各マシン ID の各警報に指定された ATSE 反応コード：

- A = アラームを作成
- T = チケットを作成
- S = 起動 スクリプト
- E = E メール受信者

起動するスクリプト

この警報条件が発生した場合に実行するエージェント手順。

スクリプト実行をオンにする

この警報条件が発生した場合にエージェント手順を実行するマシン ID。

E メール宛先

通知が送信される E メールアドレスのコンマ区切りのリスト。

ステータス

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [ステータス]

- [レポート] > [Desktop Management 『50ページ 』]で類似の情報が提供されます。

ステータスページは、以下のダッシュボードを提供します：

Desktop Policy のダッシュボード

- **電源適合**
- **ポリシー配置外観**

Desktop Migration のダッシュボード

- **プロセス設定バックアップで**
- **バックアップステータス外観の設定**
- **マシン別バックアップステータスの設定**

電源適合

電源適合セクションは、**適合条件**ドロップダウンリストを使用して選択した**電源** 『12 ページ 』ポリシーへのマシンの適合を表示します。マシンのカウントは、マシン ID/グループ ID フィルター、およびマシンに KDPM クライアントがインストールされているかどうかに基づきます。

5 つのゲージが、適合、非適合、およびサポート対象外のマシンの数を表示します。

- **モニターをオフにする** - 選択した電源ポリシーモニター設定に一致するマシン。
- **ハードディスクをオフにする** - 選択した電源ポリシーハードディスク設定に一致するマシン。
- **システムスタンバイ** - 選択した電源ポリシーシステムスタンバイ設定に一致するマシン。
- **システムスリープ** - 選択した電源ポリシーシステムスリープ設定に一致するマシン。
- **電源適合** - この 5 番目のトップゲージは、4 つの下位のゲージのロールアップを表しています。これは、4 つの電源設定のすべてに適合しているマシンの合計数です。

これらのゲージは、次の場合に更新されます：

- [**インストール/削除** 『44 ページ 』]を使用して、**KDPM** クライアントがマシンにインストールされた場合。インストールの時点でのマシンの電源設定を既に定義されている電源ポリシーと比較して、どのマシンが選択した電源ポリシーに適合していないかを決定できます。
- 電源ポリシーはマシンに適用されます。

- 最新の監査は、通常は毎日、マシンで実行されます。

指定された電源ポリシー

[**適合**]ドロップダウンリストから[指定された電源ポリシー]項目を選択して、どのマシンが適合しているか/適合していないか/指定された電源ポリシーをサポートしていないかを確認できます。これは、マシンに適用される電源ポリシーに関わらず、非適合であるマシンを決定するのを助けます。

<N>台のマシンが<power setting>に適合しない

5 つのゲージのどれかの下にあるリンクをクリックして、非適合マシン ID のリストを表示します。

<N>台のマシンが未割り当てまたはモニターされていません

この *トップゲージ*の下のリンクをクリックして、未割り当てまたはモニターされていないマシン ID のリストを表示します。

<N>台のマシンが<power setting>をサポートしない

*4 つの下位の*ゲージのどれかの下のリンクをクリックして、この特別な電源設定をサポートしていないマシン ID のリストを表示します。

> **注：**一部のマシンでは、1つ以上の電源ポリシー設定がサポートされないことがあります。代表例としては、バーチャルマシンと ターミナルサーバーです。 これらのマシンに適用する場合は、電源ポリシー設定をスキップします。

ポリシー配置外観

ポリシーのそれぞれのタイプに対して１つ、全部で３つのパイチャートを表示します：電源、マップドライブ、およびプリンターです。それぞれのパイチャートは、成功した、エラーありで成功した、失敗したポリシー配置のパーセンテージを表示し、スケジュールされないままになります。パイチャートのスライス、またはパイチャートのラベルのどれかクリックして、そのスライスに属する個々のマシンのリストを表示します。

プロセス設定バックアップで

バックアップがいつ開始したか、および使用されるフィルターの設定を表示します。

設定バックアップ外観

スケジュールされた、成功した、失敗した、およびキャンセルされたバックアップを示すパイチャートを表示します。パイチャートのスライス、またはパイチャートのラベルのどれかクリックして、そのスライスに属する個々のマシンのリストを表示します。

マシン別バックアップステータスの設定

それぞれのマシンのスケジュールされた、成功した、失敗した、またはキャンセルされたバックアップのステータスを表示します。

現在の状態

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [現在のステータス]

[**現在のステータス**]ページには、**Desktop Policy** および **Desktop Migration** クライアントがインス

トールされている各マシンについて、次の **Desktop Policy** および **Desktop Migration** の詳細を表示します。

- それぞれのユーザーログインで、そのユーザーに対して*ユーザー*、*ユーザーグループ*、*マップドライブ*および*プリンター*が定義されます。
- それぞれのマシンには、その共有名に対して*共有名*および*ローカルファイルパス*があります。

電源

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [電源]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

電源ポリシーページは、電源ポリシーを作成および管理し、選択したマシン ID に適用します。電源ポリシーは、マシンの電源管理オプションをどのように構成するかを決定します。電源管理オプションは以下に対して設定されます：

- 表示画面
- ハードドライブ
- 時間別のシャットダウン、スリープおよびスタンバイ
- バッテリー低下警告

顧客の電力消費を大幅に削減し、*自動的に*すべての管理されるマシンに**電源ポリシー**を適用してラップトップのバッテリーの寿命を延ばすことが可能です。ログインしている、いないにかかわらず、同じポリシーがマシン上の各ユーザーに適用されます。ユーザーが次回ログオンしたときに、変更が有効になります。電源ポリシーは、グループ ID では*定義されません*。なぜなら、同じ電源ポリシーは複数の顧客に適応されるからです。このページにマシンを表示するには、**[インストール/削除]**『44 ページ 』を使用してマシンに **Desktop Policy** クライアントがインストールされている必要があります。

注：一部のマシンでは、1 つ以上の電源ポリシー設定がサポートされないことがあります。代表例としては、バーチャルマシンと ターミナルサーバーです。 これらのマシンに適用する場合は、電源ポリシー設定をスキップします。**電源ステータス** 『10 ページ 』ページは、どのマシンが 特定の電源ポリシー設定をサポートしていないかを特定します。

事前に定義された電源ポリシー

次の事前定義された電源ポリシーは KDPM によって提供されており、変更することはできません。Windows XP の事前定義の電源スキームに基づいています。ユーザー定義電源ポリシーと同様に割り当てることができます。事前定義の電源ポリシーの選択は、XP マシンのプロセッサーのパフォーマンスに影響することに注意してください。

	プロセッサーのパフォーマンスのコントロールポリシー	
電源ポリシー	**AC 電源**	**DC 電源**
常時オン	なし	なし
バッテリー寿命の最大化	適用できる	下げる
ホーム/オフィスのデスクトップ	なし	適用できる
ポータブル/ラップトップ	適用できる	適用できる

	プロセッサーのパフォーマンスのコントロールポリシー	
電源ポリシー	**AC 電源**	**DC 電源**
プレゼンテーション	適用できる	下げる

プロセッサーのパフォーマンスのコントロールポリシー

マイクロプロセッサー採用の異なるパフォーマンスの状態：

- プロセッサーの使用率が高い場合、高電圧/高周波数の使用状態。
- バッテリーの寿命を守る、低電圧/低周波数の状態。

こうしたマイクロプロセッサーのパフォーマンスの状態をサポートするために、Windows XP はプロセッサーのパフォーマンスのコントロールポリシーを使用します。*電源ポリシーは、ターゲットマシンのプロセッサーのコントロールポリシーを決定します。*

ポリシー	**説明**
なし	高パフォーマンス状態。
適用できる	需要に従って選んだパフォーマンス状態。
下げる	最低のパフォーマンス状態 + バッテリーの放電に伴う追加直線的パフォーマンス低下。

アクション

このページは以下のアクションを提供します：

- **スケジュール** - クリックすると、[**スケジューラ**]ウインドウが表示されます。このウインドウは、VSA 全体でタスクのスケジュールに使用します。タスクを一度、または定期的にスケジュールします。再発生のタイプ *（一度のみ、毎時間、毎日、毎週、毎月、毎年）* が、それぞれの再発生のタイプに適した追加オプションを表示します。定期的スケジューリングには、再発生の開始日と終了日の設定が含まれます。各スケジュールタスクですべてのオプションが使用できるわけではありません。次のオプションがあります。
  - **配布ウインドウ** - ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、あるタスクの実行時間が午前 3:00 にスケジュールされ、配布期間が 1 時間の場合、タスクが午前 3:00～午前 4:00 のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。
  - **オフラインなら省く** - これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシンがオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
  - **オンラインなら電源起動** - Windows のみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの電源をオンにします。同じ LAN 上で、Wake-On-LAN または vPro と、他の運営しているシステムが必要です。
  - **以下の時間範囲を除外する** - **配布期間にのみ適用されます。** チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。
- **今すぐ適用** - 選択したポリシーを選択したマシン ID に適用します。
- **キャンセル** - 選択したマシン ID のスケジュールオプションをキャンセルします。

- **編集** - 既存の**電源ポリシー** 『15 ページ 』を追加、編集または削除します。ポリシーを追加、編集するとき、ポリシーの名前を変えることができます。作成したポリシーは、すべてのグループに適用されます。新しいポリシーを作成するには、ポリシーのドロップダウンリストから[<新規電源ポリシーの作成>]を選択し、[**編集**]をクリックします。他のユーザーまたはユーザー役割で作成した電源ポリシーを**共有...**できます。組み込みの電源ポリシーは変更できず、すでにすべてのユーザーで共有されています。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます。

- オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

電源ポリシー

このマシン ID に指定したポリシー。

最後の適用時間

このマシン ID にこのポリシーが適用された最後の時です。

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックマーク✔が表示され、マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされている期間および時間に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

次の適用時間

このポリシーが適用を計画されている次の時間です。日付/時間期限切れスタンプは赤の文字に黄色のマーカーで表示されます。

期間

再発の場合、タスクを再実行する前に希望するインターバルを表示します。

電源ポリシー

Desktop Management > [ポリシー] > [電源] > [編集]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

電源ポリシーダイアログボックスは、電源ポリシーのオプションを指定します。**電源** 『12 ページ 』ページを使用して、管理されるマシンに電源ポリシーを割り当てます。

ポリシー名

名前を入力するか、この電源ポリシーの名前を変更します。

電源スキーマ

コンピュータが**接続されているか**、または**バッテリーで動作中である**かによって、以下のアクションを実行する前に、どの程度の時間コンピュータが待機するかを入力します：

- **モニターをオフにする** - 通常は、電源を保護するために、短い時間でもモニターをオフにします。
- **ハードディスクをオフにする** - 通常は、電源を保護するために、短い時間でもハードディスクをオフにします。
- **システムスタンバイ** - スタンバイがオンである間は、コンピュータ全体が低電力状態に切り替わり、モニターやハードディスクなどのデバイスがオフになって、コンピュータの使用電力が低下します。再びコンピュータを使用する際は、素早くスタンバイ状態を抜けて、デスクトップは正確に元の状態に戻ります。ポータブルコンピュータでバッテリーの電力を保護する場合、スタンバイは特に便利です。*スタンバイではデスクトップの状態はディスクに保存されないので、スタンバイ中に停電があると、保存してない情報は失われます。*
- **システムスリープ** - スリープの場合、メモリの内容はすべてディスクに保存され、モニターやハードディスクはオフになり、コンピュータもオフになります。コンピュータを再起動すると、デスクトップは正確に元の状態に戻ります。スタンバイの場合に比べて、スリープではコンピュータが元に戻るまでに時間がかかります。

低バッテリーアラーム

以下を指定します：

- **電源レベルが<N> %になると、低バッテリーアラームを有効にする** - チェックした場合、電源レベルが指定したパーセンテージに達した場合に、アラームをトリガーします。
- **サウンドアラーム** - これをチェックすると、アラームがあると音が出ます。
- **メッセージ表示** - これをチェックすると、アラームがあるとメッセージが表示されます。
- **アラームがオフになると、コンピュータは** - チェックした場合、アラームがトリガーされたときにコンピュータの状態が[スタンバイ]、[休止]、または[シャットダウン]になります。
- **プログラムが反応しなくなると強制アクション** - チェックすると、ハングしたり壊れたプログラムが、アラームに反応して、システムに影響をあたえることがなくなります。

きわめて重要なバッテリーアラーム

以下を指定します：

- **電源レベルが<N> %になると、重大のバッテリーアラームを有効にする** - チェックした場合、電源レベルが指定したパーセンテージに達した場合に、アラームをトリガーします。通常は、この**きわめて重要なバッテリーアラーム**の設定は、**低バッテリーアラム**の設定より小さいパーセンテージになります。
- **サウンドアラーム** - これをチェックすると、アラームがあると音が出ます。

- **メッセージ表示** - これをチェックすると、アラームがあるとメッセージが表示されます。
- **アラームがオフになると、コンピュータは** - チェックした場合、アラームがトリガーされたときにコンピュータの状態が[スタンバイ]、[休止]、または[シャットダウン]になります。
- **プログラムが反応しなくなると強制アクション** - チェックすると、ハングしたり壊れたプログラムが、アラームに反応して、システムに影響をあたえることがなくなります。

詳細

以下を指定します：

- **コンピュータがスタンバイから復帰する際に、パスワードを要求する**
- **スリープ有効** - チェックすると、電源オプションとしてスリープが有効になります。

電源ボタンの動作*(Vista 移行の場合)*

- **ラップトップコンピュータの蓋を閉じると** - [何も実行しない]、[スタンバイ]、または[休止]
- **コンピュータの電源ボタンを押すと** - [何も実行しない]、[スタンバイ]、[休止]、または[シャットダウン]
- **コンピュータのスリープボタンを押すと** - [何も実行しない]、[スタンバイ]、[休止]、または[シャットダウン]

マップドライブ

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [マップドライブ]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

マップドライブページは、マップドライブポリシーを作成および管理し、選択したマシン ID に一様に適用します。それぞれの管理されるマシンには、適用されるポリシーに従って、マップドライブの適切なセットが*自動的に*割り当てられます。ログインしている、いないにかかわらず、同じポリシーがマシン上の各ユーザーに適用されます。ユーザーが次回ログオンしたときに、変更が有効になります。組織全体にマップドライブのセットを一様に適用すると、どこにリソースが存在するかに関するユーザーの混乱が減少し、より生産的なタスクに時間を回せます。また、こうしたドライブのマッピングを手動で実現するための IT サポートコールも削減できます。

> **注：**ターゲットマシンの資格情報をもつユーザーに、マップするネットワークディレクトリへのアクセス権限があることを確認します。通常、KDPM を使用してマシンを管理する場合、ドメイン管理者の資格情報を使用します。[エージェント] > [資格情報の設定]を参照してください。

このページにマシンを表示するには、**[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用してマシンに **Desktop Policy** クライアントがインストールされている必要があります。

アクション

このページは以下のアクションを提供します：

- **スケジュール** - クリックすると、[**スケジューラ**]ウインドウが表示されます。このウインドウは、VSA 全体でタスクのスケジュールに使用します。タスクを一度、または定期的にスケジュールします。再発生のタイプ *(一度のみ、毎時間、毎日、毎週、毎月、毎年)* が、それぞれの再発生のタイプに適した追加オプションを表示します。定期的スケジューリングには、再発生の開始日と終了日の設定が含まれます。各スケジュールタスクですべてのオプションが使用できるわけではありません。次のオプションがあります。
  - **配布ウインドウ** - ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、

あるタスクの実行時間が午前 3:00 にスケジュールされ、配布期間が 1 時間の場合、タスクが午前 3:00～午前 4:00 のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。

- **オフラインなら省く** - これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシンがオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
- **オンラインなら電源起動** - Windows のみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの電源をオンにします。同じ LAN 上で、Wake-On-LAN または vPro と、他の運営しているシステムが必要です。
- **以下の時間範囲を除外する** - **配布期間にのみ適用されます。**チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。

- **今すぐ適用** - 選択したポリシーを選択したマシン ID に適用します。
- **キャンセル** - 選択したマシン ID のスケジュールオプションをキャンセルします。
- **編集** - 既存の**マップドライブポリシー** 『18 ページ 』を追加、編集または削除します。ポリシーを追加、編集するとき、ポリシーの名前を変えることができます。特定のグループに対してポリシーを指定しなければなりません。新しいポリシーを作成するには、ポリシーのドロップダウンリストから[<新規電源ポリシーの作成>]を選択し、[**編集**]をクリックします。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます。

- オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

マップドライブポリシー

このマシン ID に指定したポリシー。

最後の適用時間

このマシン ID にこのポリシーが適用された最後の時です。

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックマーク✔が表示され、マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされている期間および時間に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

次の適用時間

このポリシーが適用を計画されている次の時間です。日付/時間期限切れスタンプは赤の文字に黄色のマーカーで表示されます。

期間

再発の場合、タスクを再実行する前に希望するインターバルを表示します。

マップドライブポリシー

Desktop Management > [ポリシー] > [マップドライブ] > [編集]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

マップドライブポリシーダイアログボックスは、マップドライブのセットを指定します。**マップドライブ** 『16 ページ 』ページを使用して、管理されるマシンにマップドライブポリシーを割り当てます。

ポリシー名

名前を入力するか、このマップドライブポリシーの名前を変更します。

(グループ)

このマップドライブポリシーを適用するグループ ID を入力します。マシングループは通常、顧客のタイプ、または顧客の場所でまとめます。したがって、マップドライブは通常それぞれのマシングループで一意になります。

すべてのドライブ・マッピングを置換する

チェックした場合、マシンに既に存在しているマップドライブをすべて削除し、割り当て済みのマップドライブポリシーで定義されたマップドライブを追加します。チェックしない場合、マシンに既に存在するマップドライブに、割り当て済みのマップドライブポリシーで定義されたマップドライブが追加されます。

ドライブのマッピング

マップドライブをこのポリシーに追加します。

1. **マップドライブパス** - UNC 記述を使用して、共有ネットワークフォルダのパスを入力します。
2. **マップドライブ** - マップドライブの文字を選択します。
3. **追加** - **追加**ボタンをクリックします。

このシーケンスを繰り返して、複数のマップドライブをこのポリシーに追加します。

- **編集** - **編集**をクリックして、マップドライブのパスとドライブの文字を変更します。**更新**をクリックして変更を保存します。
- **削除** - **削除**をクリックして、このポリシーからマップドライブを削除します。

プリンター

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [プリンター]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

プリンターページは、プリンター接続ポリシーを作成および管理し、選択したマシン ID に一様に適用します。それぞれの管理されるマシンには、適用されるポリシーに従って、プリンター接続の適切なセットが*自動的に*割り当てられます。ログインしている、いないにかかわらず、同じポリシーがマシン上の各ユーザーに適用されます。ユーザーが次回ログオンしたときに、変更が有効になります。プリンター接続を組織全体に適用して、ユーザーにより生産的なタスクのための時間を与えます。また、こうしたプリンター接続を手動で実現するための IT サポートコールも削減できます。このページにマシンを表示するには、**[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用してマシンに**Desktop Policy** クライアントがインストールされている必要があります。

注：ターゲットマシンの資格情報をもつユーザーに、指定したプリンターへのアクセス権限があることを確認します。一般に、マシンを管理する場合、ドメイン管理者証明書を使用します。[エージェント] > [資格情報の設定]を参照してください。

プリンターネットワーク位置の決定

プリンターポリシーを編集する場合、`\\Server\Share` のフォーマットで、ネットワークプリンターの UNC 位置を指定する必要があります。このプリンターネットワーク位置を決定するには：

1. **プリンターとファックス**ウィンドウにリストされるプリンターの**プロパティ**を表示します。
2. **ポート**タブを選択します。
3. プリンターネットワーク位置は、隣のチェックボックスがチェックされている**ポート**列に表示されます。

アクション

このページは以下のアクションを提供します：

- **スケジュール** - クリックすると、[**スケジューラ**]ウインドウが表示されます。このウインドウは、VSA 全体でタスクのスケジュールに使用します。タスクを一度、または定期的にスケジュールします。再発生のタイプ *（一度のみ、毎時間、毎日、毎週、毎月、毎年）*が、それぞれの再発生のタイプに適した追加オプションを表示します。定期的スケジューリングには、再発生の開始日と終了日の設定が含まれます。各スケジュールタスクですべてのオプションが使用できるわけではありません。次のオプションがあります。
  - **配布ウインドウ** - ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、あるタスクの実行時間が午前 3:00 にスケジュールされ、配布期間が 1 時間の場合、タスクが午前 3:00～午前 4:00 のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。
  - **オフラインなら省く** - これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシンがオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
  - **オンラインなら電源起動** - Windows のみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの電源をオンにします。同じ LAN 上で、Wake-On-LAN または vPro と、他の運営しているシステムが必要です。

- **以下の時間範囲を除外する** - **配布期間にのみ適用されます。**チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。

- **今すぐ適用** - 選択したポリシーを選択したマシン ID に適用します。
- **キャンセル** - 選択したマシン ID のスケジュールオプションをキャンセルします。
- **編集** - 既存の**プリンターポリシー** 『20 ページ 』を追加、編集または削除します。ポリシーを追加、編集するとき、ポリシーの名前を変えることができます。特定のグループに対してポリシーを指定しなければなりません。新しいポリシーを作成するには、ポリシーのドロップダウンリストから[<新規電源ポリシーの作成>]を選択し、[**編集**]をクリックします。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

プリンターポリシー

このマシン ID に指定したポリシー。

最後の適用時間

このマシン ID にこのポリシーが適用された最後の時です。

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックマーク✔が表示され、マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされている期間および時間に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

次の適用時間

このポリシーが適用を計画されている次の時間です。日付/時間期限切れスタンプは赤の文字に黄色のマーカーで表示されます。

期間

再発の場合、タスクを再実行する前に希望するインターバルを表示します。

プリンターポリシー

Desktop Management > [ポリシー] > [プリンターポリシー] > [編集]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

プリンターポリシーダイアログボックスは、プリンターネットワーク位置のセットを指定します。**プリンター** 『19 ページ 』ページを使用して、管理されるマシンにプリンターポリシーを割り当てます。

ポリシー名

名前を入力するか、このプリンターポリシーの名前を変更します。

(グループ)

このプリンターポリシーを適用するグループ ID を入力します。マシングループは通常、顧客のタイプ、または顧客の場所でまとめます。したがって、プリンターは通常それぞれのマシングループで一意になります。

すべてのプリンタを置換する

チェックした場合、マシンに既に存在しているプリンターをすべて削除し、割り当て済みのマップドライブポリシーで定義されたプリンターを追加します。チェックしない場合、マシンに既に存在するプリンターに、割り当て済みのマップドライブポリシーで定義されたプリンターが追加されます。

プリンター

プリンターをこのポリシーに追加します。

1. **プリンターネットワーク位置** - ネットワークプリンターのポートを入力します。

   注：プリンターのネットワークポートの候補リストについては、ユーザーのコンピュータに関するプリンター定義の[プロパティ] > [ポート]タブ > [ポート]列を参照してください。

2. **デフォルトプリンターにする** - チェックすると、このプリンターネットワーク位置がデフォルトプリンターとして設定されます。
3. **追加** - **追加**ボタンをクリックします。

このシーケンスを繰り返して、複数のプリンターネットワーク位置をこのポリシーに追加します。

- **編集** - **編集**をクリックして、プリンターネットワーク位置を変更します。**更新**をクリックして変更を保存します。
- **削除** - **削除**をクリックして、このポリシーからプリンターネットワーク位置を削除します。

デスクトップ

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [デスクトップ]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

[**デスクトップ**]ページでは、選択したマシン ID にデスクトップ標準パッケージをインストールします。**デスクトップスタンダードパッケージ**は、通常は同じ会社内にある複数のマシンに渡って統一的にユーザー設定を適用するために作成されたインストールファイルです。たとえば、会社はその会社に固有のデスクトップアイコンやそれぞれのユーザーのマシンで常に使用可能であるインターネットのブックマークを必要とするかもしれません。 このページにマシンを表示するには、**[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用してマシンに **Desktop Policy** クライアントがインストールされている必要があります。適用後、ユーザーが次回ログオンしたときに変更が有効になります。

デスクトップ標準パッケージの作成と編集を行うには、Desktop Management > **[デスクトップパッケージ]** 『23 ページ 』を使用します。ソースマシンの単一ユーザーを選択して設定を抽出します。[**デスクトップ**]ページを使用して、デスクトップパッケージをターゲットマシンの *すべてのユーザー* に適用します。**復元** 『34 ページ 』とは異なり、適用するデスクトップパッケージ内の設定を選択することはできません。デスクトップパッケージのすべての設定が適用されます。

アクション

このページは以下のアクションを提供します：

- **スケジュール** - クリックすると、[**スケジューラ**]ウインドウが表示されます。このウインドウは、VSA 全体でタスクのスケジュールに使用します。タスクを一度、または定期的にスケジュールします。再発生のタイプ（*一度のみ*、*毎時間*、*毎日*、*毎週*、*毎月*、*毎年*）が、それぞれの再発生のタイプに適した追加オプションを表示します。定期的スケジューリングには、再発生の開始日と終了日の設定が含まれます。各スケジュールタスクですべてのオプションが使用できるわけではありません。次のオプションがあります。
  - **配布ウインドウ** - ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、あるタスクの実行時間が午前 3:00 にスケジュールされ、配布期間が 1 時間の場合、タスクが午前 3:00～午前 4:00 のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。
  - **オフラインなら省く** - これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシンがオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
  - **オンラインなら電源起動** - Windows のみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの電源をオンにします。同じ LAN 上で、Wake-On-LAN または vPro と、他の運営しているシステムが必要です。
- **以下の時間範囲を除外する - 配布期間にのみ適用されます。** チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。
- **今すぐ適用** - 選択したパッケージを選択したマシン ID に適用します。
- **キャンセル** - 選択したマシン ID のスケジュールオプションをキャンセルします。
- **デスクトップスタンダードパッケージの作成/変更** - 選択したマシン ID に適用するデスクトップスタンダードパッケージを選択します。

> **注：**デスクトップ標準パッケージの作成と編集を行うには、Desktop Management > **[デスクトップパッケージ]** 『23 ページ 』を使用します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます。

- オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動

- エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

デスクトップ標準パッケージ

このマシン ID に適用されるユーザー設定のデスクトップスタンダードパッケージ。

最後の適用時間

このマシン ID にこのパッケージが適用された最後の時です。

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックマーク✔が表示され、マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされている期間および時間に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

次の適用時間

このパッケージの適用がスケジュールされている次の時間です。日付/時間期限切れスタンプは赤の文字に黄色のマーカーで表示されます。

期間

再発の場合、タスクを再実行する前に希望するインターバルを表示します。

デスクトップの構成

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [デスクトップパッケージ]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

デスクトップパッケージページは、デスクトップスタンダードパッケージを作成します。デスクトップ標準パッケージを配置するには、**[デスクトップ]** 『21 ページ 』ページを使用します。**デスクトップスタンダードパッケージ**は、通常は同じ会社内にある複数のマシンに渡って統一的にユーザー設定を適用するために作成されたインストールファイルです。たとえば、会社はその会社に固有のデスクトップアイコンやそれぞれのユーザーのマシンで常に使用可能であるインターネットのブックマークを必要とするかもしれません。　このページにマシンを表示するには、**[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用してマシンに **Desktop Policy** クライアントがインストールされている必要があります。

ソースマシンの単一ユーザーを選択して設定を抽出します。[**デスクトップ** 『21 ページ 』]ページを使用して、デスクトップパッケージをターゲットマシンの *すべてのユーザー* に適用します。**復元** 『34 ページ 』とは異なり、適用するデスクトップパッケージ内の設定を選択することはできません。デスクトップパッケージのすべての設定が適用されます。

デスクトップ標準パッケージの作成または変更を行うには、次の手順に従います。

1. **デスクトップパッケージ** - 中央パネルで既存のパッケージを選択するか、[**新規**]でパッケージの作成を指定します。
2. **デスクトップパッケージ名** - 新しいパッケージの名前を入力します。別の名前を入力して、既存のパッケージの名前を変更することもできます。

3. **マシングループ** - このパッケージを適用するマシングループを選択します。[<すべてのグループ>]を指定するか、特定のグループを指定できます。グループが別の顧客を表すこともあるので、パッケージはマシングループに対して一意になります。ユーザーがアクセスできるグループのみが表示されます。
4. **デスクトップ設定フィルター**
   - [<新規デスクトップ設定フィルターの作成>]を選択するか、既存の**デスクトップ設定フィルター** 『24 ページ 』と[**編集**]を選択して、パッケージに含める設定を指定します。
   - **デスクトップ設定フィルター**を**編集**する場合、**ステップ 5** で**ソースマシンで使用するローカルユーザーアカウント**を指定します。
   - **削除**をクリックして、既存のデスクトップ設定フィルターを削除します。作成したデスクトップ設定フィルターを他のユーザーまたはユーザー役割と**共有**できます。

   > **注：ステップ4**の**デスクトップ設定フィルター**は、**ステップ6**で設定を抽出して作成するデスクトップパッケージに*バインド*されます。フィルターおよびパッケージを初めて作成した後は、フィルターを変更して使用することで、作成した元のパッケージに影響を与えることなく、別のパッケージを作成できます。別のフィルター設定を使用して再作成することで、既存のパッケージのフィルター設定を変更できます。

5. **ソースマシン** - **ステップ 4** に含まれる各デスクトップ設定の詳細は、**ソースマシンのローカルユーザーアカウント**から収集されます。これらの詳細をコピーするソースマシンを選択します。
6. **抽出** - このボタンをクリックしてパッケージを作成します。[**デスクトップパッケージのステータス**]に、パッケージが最後に変更された日付スタンプが表示されます。パッケージが更新される場合は、[保留中]が表示されます。

アクション

- **新規** - デスクトップパッケージを作成します。
- **保存** - 選択したデスクトップパッケージの変更を保存します。
- **削除** - 選択したデスクトップパッケージを削除します。
- **共有** - 選択したデスクトップ標準パッケージを個別のユーザーまたはユーザー役割と共有します。

デスクトップ設定フィルター

Desktop Management > [設定] > [パッケージの定義] > [編集]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

デスクトップ設定フィルターダイアログボックスは、システム設定、アプリケーション設定およびローカルユーザーアカウントのセットを指定します。デスクトップ設定フィルターは、ソースマシンに適用されて、 **デスクトップ** 『23 ページ 』を使用する、**デスクトップスタンダードパッケージ**を作成します。同じデスクトップ設定フィルターを複数のソースマシンと組み合わせて、複数のデスクトップスタンダードパッケージを作成できます。

> **注：**ターゲットマシンが特定の設定を使用していない場合、復元中または移行中には設定が無視されます。

フィルタ名

名前を入力するか、このデスクトップ設定フィルターの名前を変更します。

共有...

共有...をクリックして、このデスクトップ設定フィルターを他のユーザーまたはユーザー役割と共有します。

ユーザー

ソースマシンのユーザーを指定 - ドメインユーザーの場合、認証された DOMAIN\UserName フォーマットを使用します。

設定は必ず特定のマシンの特定のユーザーによって定義されます。**デスクトップ設定フィルター**で選択するシステム設定、アプリケーション設定、およびファイル—ローカルユーザーアカウントに対して指定する—は、デスクトップスタンダードパッケージの一部として保存されます。

> **注：**指定するローカルユーザーアカウントは、指定するソースマシンに存在している必要があります。*ソースマシンは**デスクトップパッケージ** 『23 ページ 』の親ウィンドウのステップ 5 で選択されます。*

システム設定

パッケージに含めたい、それぞれのシステム設定をチェックします。

アプリケーション設定

パッケージに含めたい、それぞれのアプリケーションをチェックします。

ファイル

ファイル、ディレクトリまたはファイルのタイプをファイル拡張子によって含めたり、除外します。除外が優先します。例：`.doc .ppt .xls`

% 文字を最初の文字として入力すると、ファイルやディレクトリの指定で使用できる変数のリストが表示されます。変数には以下があります：

%AppData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%ApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%CommonApplicationData%	マシン毎	すべてのユーザーの AppData ディレクトリ
%CommonDesktop%	マシン毎	すべてのユーザーのデスクトップディレクトリ
%CommonDocuments%	マシン毎	すべてのユーザーのドキュメントディレクトリ
%CommonProgramFiles%	マシン毎	すべてのユーザーの共通ファイルディレクトリ
%CommonStartMenu%	マシン毎	すべてのユーザーのスタートメニューの項目ディレクトリ
%ComputerName%	マシン毎	コンピュータの名前です。ドメインで、認証された名前。
%Desktop%	ユーザー毎	ユーザ専用デスクトップディレクトリ
%Favorites%	ユーザー毎	ユーザーのお気に入りは、このディレクトリに保存されます。
%History%	ユーザー毎	ユーザーの Internet Explorer ブラウザの履歴を検索する場所
%LocalApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用ローカル AppData ディレクトリ。これらの設定はローミングプロファイルでは移動しません。
%MyMusic%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ミュージック}のディレクトリ
%MyPictures%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ピクチャ]のディレクトリ

%MyDocuments%	ユーザー毎	ユーザーの「マイ ドキュメント」ディレクトリ
%Personal%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ドキュメント]のディレクトリ
%Profiles%	マシン毎	システムがユーザーのディレクトリを保存する場所
%Programs%	ユーザー毎	ユーザーのスタートメニューのプログラム
%ProgramFiles%	マシン毎	システムがプログラムを保存する場所
%QuickLaunch%	ユーザー毎	ユーザーのクイック起動のプログラム
%System%	マシン毎	システムファイルがインストールされる場所
%UserName%	ユーザー毎	ユーザーのログイン名(*フルネームではない*)
%UserProfile%	ユーザー毎	ユーザーの[プロファイル]または[ホーム]のディレクトリ。
%WinDir%	マシン毎	Windows がインストールされる場所

光学ドライブ

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [光学ドライブ]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

[**光学ドライブ**]ページでは、管理マシンの DVD ドライブおよび CD-ROM ドライブを有効/無効にします。マシンが次回リブートしたときに、変更した設定が有効になります。[**次の実行**]列の値は、コマンドが保留中であることを示します。

アクション

- **有効にする** - 選択したマシンのすべての光学ドライブを有効にします。
- **無効にする** - 選択したマシンのすべての光学ドライブを無効にします。

USB ドライブ

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [USB ドライブ]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

[**USB ドライブ**]ページでは、管理マシンの USB フラッシュドライブを有効/無効にします。マシンが次回リブートしたときに、変更した設定が有効になります。[**次の実行**]列の値は、コマンドが保留中であることを示します。

> **注：**マシンの管理者は USB ドライブアクセスを再度有効にすることができます。管理者が新しい USB デバイスを挿入した場合、Windows は USB デバイスを自動的に再度有効にします。管理者以外のアカウントを使用して USB デバイスを挿入した場合、有効にはなりません。

アクション

- **有効にする** - 選択したマシンのすべての USB ドライブを有効にします。
- **無効にする** - 選択したマシンのすべての USB ドライブを無効にします。

Windows Defender

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [Windows Defender]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

[**Windows Defender**]ページでは、管理マシンで Windows Defender を有効/無効にします。マシンが次回リブートしたときに、変更した設定が有効になります。[**次の実行**]列の値は、コマンドが保留中であることを示します。

アクション

- **有効にする** - 選択したマシンの Windows Defender を有効にします。
- **無効にする** - 選択したマシンの Windows Defender を無効にします。

アクション・センター

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [アクションセンター]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

[**アクションセンター**]ページでは、管理マシンで Microsoft のアクションセンターを有効/無効にします。マシンが次回リブートしたときに、変更した設定が有効になります。[**次の実行**]列の値は、コマンドが保留中であることを示します。

> **注：** Vista 以前は、アクションセンターのことを Windows セキュリティセンターと呼んでいました。

アクション

- **有効にする** - 選択したマシンでアクションセンターを有効にします。
- **無効にする** - 選択したマシンでアクションセンターを無効にします。

ポリシー警報

Desktop Management > [デスクトップポリシー] > [ポリシー警報]

- このページはDesktop Policyがインストールされているときにのみ表示されます。

[**ポリシー警報**]ページでは、次の KDPM のページを使用してスケジュールされたポリシーイベントについて、その成功または失敗に応じた警報を作成します。

- **電源** 『12 ページ 』
- **マップドライブ** 『16 ページ 』
- **プリンター** 『19 ページ 』
- **デスクトップ** 『21 ページ 』

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。 このページにマシンを表示するには、**[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用してマシンに **Desktop Policy** クライアントがインストールされている必要があります。

警報を作成するには

1. これらのチェックボックスのいずれかをチェックすると、警報条件の発生時に、対応するアクションが実行されます。
   - **ア**ラームを作成
   - **チ**ケットを作成
   - **ス**クリプトを実行
   - **E** メール受信者
2. 追加の E メールパラメータを設定します。
3. 以下のうちのどれかを選択します：
   - 電源ポリシーの適用が成功
   - 電源ポリシーの適用が失敗
   - マップドライブの適用が成功
   - マップドライブの適用が失敗
   - プリンターポリシーの適用が成功
   - プリンターポリシーの適用が失敗
   - デスクトップポリシーの適用が成功
   - デスクトップポリシーの適用が失敗
4. 警報設定を適用するマシン ID をチェックします。
5. **設定**をクリックして、選択したマシン ID に警報設定を割り当てます。

警報設定をコピーするには

1. [すべての設定のコピー元]を選択します。
2. [*（クリックして選択）*]をクリックして、警報設定のコピー元にする **Desktop Policy** の管理マシンを選択します。
3. 警報設定を適用するマシン ID をチェックします。
4. **設定**をクリックして、選択したマシン ID に警報設定を割り当てます。

アラームの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとアラームが作成されます。アラームは、[モニター] > [ダッシュボードリスト]、[モニター] > [アラームサマリ]、および[情報センター] > [レポーティング] > [レポート] > [ログ] > [アラームログ]に表示されます。

チケットの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとチケットが作成されます。

スクリプトを実行する

チェックした場合、警報条件が発生するとエージェント手順が実行されます。実行するエージェント手順を選ぶには、**エージェント手順の選択**リンクをクリックしなければなりません。**このマシン ID** リンクをクリックすることで、マシン ID の特定レンジでエージェント手順を作動させることができます。指定するこれらのマシン ID を、警報条件が発生したマシン ID と一致させる必要はありません。

E メールを送信する。

チェックした場合、警報条件が発生すると、E メールが指定 E メールアドレスに送信されます。

- **現在のリストに追加**ラジオボタンオプションを選択し、 **適用**をクリックすると、警報設定が適用され、以前に指定されたＥメールアドレスはそのままで、指定されたＥメールアドレスが加えられます。
- **リストの置き換え**ラジオボタンオプションを選択し、**適用**をクリックすると、警報設定が適用され、指定されたＥメールアドレスが、現存のＥメールアドレスと置き換わります。
- **取り除く**をクリックすると、**どの警報パラメータも修正することなく**全Ｅメールアドレスが取り除かれます。
- Ｅメールは、警報で指定されたＥメールアドレスに Kaseya Server から直接送信されます。[**発信元アドレス**]を設定するには、[システム] > [アウトバウンドＥメール]を使用します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます。

オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています

エージェントがオンライン

エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。

エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません

エージェントが現在オフライン

エージェントが今までチェックインしたことがない

エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動

エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

警報名

各マシン ID にあり得る警報をリストアップします。

応答

各マシン ID の各警報に指定された ATSE 反応コード：

- A = **ア**ラームを作成
- T = **チ**ケットを作成
- S = 起動 **スクリプト**
- E = **E** メール受信者

起動するスクリプト

この警報条件が発生したときに、実行するスクリプトです。

スクリプト実行をオンにする

この警報条件が発生したときに、スクリプトを実行するマシン ID です。

E メール宛先

通知が送信される E メールアドレスのコンマ区切りのリスト。

移行可能

Desktop Management > [デスクトップ移行] > [移行可能]

移行可能ページは、エンドポイントが Windows 7 または他のオペレーティングシステムへアップグレードする際の簡単なコストのまとめを提供します。監査情報を使用すると、以下に関する最小システム要件について視覚的な比較が可能になります：

- CPU
- ハードディスク
- RAM

インタラクティブなコスト作業シートによって、以下を入力できます：

- ハードウェア要件
- ハードウェアコスト
- 移行要件
- 経理

注：表示されているマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルター、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ] により表示する権限をユーザーがもつマシングループにより異なります。

注：[移行可能]ページには、エージェントがインストールされているサーバーが表示されません。

バックアップ

Desktop Management > [デスクトップ移行] > [バックアップ]

- このページはDesktop Migrationがインストールされているときにのみ表示されます。

バックアップページは、選択したマシン ID のすべてのローカルユーザーのアカウントの設定の一度または繰返しのバックアップをスケジュールします。Desktop Migration の設定およびローカルユーザーアカウントを同じマシンに復元するには、Desktop Management > **[復元]** 『34 ページ 』を使用します。別のマシンに移行するには、Desktop Management > **[移行]** 『37 ページ 』を使用します。このページにマシンを表示するには、**[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用してマシンに Desktop Migration クライアントがインストールされている必要があります。

注：バックアップは当初ローカルマシンで準備されるので、バックアップするデータ量と等しい空きスペースがマシンに必要です。

アクション

このページは以下のアクションを提供します：

- **スケジュール** - クリックすると、[**スケジューラ**]ウインドウが表示されます。このウインドウは、VSA 全体でタスクのスケジュールに使用します。タスクを一度、または定期的にスケジュールします。再発生のタイプ *（一度のみ、毎時間、毎日、毎週、毎月、毎年）* が、それぞれの再発生のタイプに適した追加オプションを表示します。定期的スケジューリングには、再発生の開始

日と終了日の設定が含まれます。各スケジュールタスクですべてのオプションが使用できるわけではありません。次のオプションがあります。

- **配布ウインドウ** - ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、あるタスクの実行時間が午前 3:00 にスケジュールされ、配布期間が 1 時間の場合、タスクが午前 3:00～午前 4:00 のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。
- **オフラインなら省く** - これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシンがオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
- **オンラインなら電源起動** - Windows のみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの電源をオンにします。同じ LAN 上で、Wake-On-LAN または vPro と、他の運営しているシステムが必要です。
- **以下の時間範囲を除外する - 配布期間にのみ適用されます。** チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。

- **すぐにバックアップ** - 選択したユーザー設定フィルターを使用して、選択したマシン ID のユーザー設定およびローカルユーザーのアカウントをすぐにバックアップします。
- **キャンセル** - 選択したマシン ID からスケジュールを削除します。
- **編集/削除** - 既存の**ユーザー設定フィルター** 『32 ページ 』を追加、編集または削除します。ユーザー設定フィルターを追加または編集する際に、ユーザー設定フィルターの名前を変更できます。ユーザー設定フィルターを個別のユーザーまたはユーザー役割と共有できます。新しいユーザー設定を作成するには、ドロップダウンリストから[<新規ユーザー設定フィルターの作成>]を選択して、[**編集**]をクリックします。他のユーザーまたはユーザー役割で作成したユーザー設定フィルターを**共有...**できます。

> **注：** 次の 3 つの事前定義設定フィルターがすぐに使えます：[フル]、[最小]、および[通常]。これらの事前定義のフィルターは変更できません。これらの事前定義されているフィルターの設定を表示するには、フィルターを選択して**[編集]**ボタンをクリックします。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます。

- オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

バックアップの最大数

このマシン ID に対して保存されているバックアップの最大数。**データ設定** 『40 ページ 』を使用して、最大で 99 までのバックアップを指定できます。

最後のバックアップ

このマシン ID に対して作成された最後のバックアップのステータス。

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックマーク✔が表示され、マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされている期間および時間に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

次のフィルター

次のバックアップで使用するフィルター。

次のバックアップ

次回、このマシン ID がそのユーザー設定とローカルユーザーアカウントのバックアップを行う予定。日付/時間期限切れスタンプは赤の文字に黄色のマーカーで表示されます。

期間

再発の場合、タスクを再実行する前に希望するインターバルを表示します。

ユーザー設定フィルター

Desktop Management > [ファイルと設定] > [バックアップ] > [編集]

- このページはDesktop Migrationがインストールされているときにのみ表示されます。

ユーザー設定フィルターダイアログボックスは、システム設定とアプリケーション設定のセットを指定します。ユーザー設定フィルターは、管理されるマシンに適用され、そのマシンのすべてのローカルユーザーアカウントに対するすべての選択された設定のバックアップを作成します。管理されるマシンのユーザー設定のバックアップは、**バックアップ** 『30 ページ 』ページを使用してスケジュールされます。

> **注：** 次の 3 つの事前定義設定フィルターがすぐに使えます：[フル]、[最小]、および[通常]。これらの事前定義のフィルターは変更できません。
>
> **注：**復元の場合、復元するローカルユーザーアカウントおよび設定を選択するオプションがあります。ターゲットマシンが特定の設定を使用していなければ、復元中は設定が無視されます。
>
> **注：** ローカルユーザーのアカウントは、`domain\user`として保存されます。ローカルユーザーのアカウントを新しいマシンに移行する場合、ローカルユーザーのアカウントを新しいドメインに再マップすることができます。

フィルタ名

名前を入力するか、このユーザー設定フィルターの名前を変更します。

共有...

共有...をクリックして、このユーザー設定を他のユーザーまたはユーザー役割と共有します。

システム設定

バックアップに含めたい、それぞれのシステム設定をチェックします。

アプリケーション設定

バックアップに含めたい、それぞれのアプリケーション設定をチェックします。

ファイル

ファイル、ディレクトリまたはファイルのタイプをファイル拡張子によって含めたり、除外します。除外が優先します。例：`.doc .ppt .xls`

% 文字を最初の文字として入力すると、ファイルやディレクトリの指定で使用できる変数のリストが表示されます。変数には以下があります：

%AppData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%ApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%CommonApplicationData%	マシン毎	すべてのユーザーの AppData ディレクトリ
%CommonDesktop%	マシン毎	すべてのユーザーのデスクトップディレクトリ
%CommonDocuments%	マシン毎	すべてのユーザーのドキュメントディレクトリ
%CommonProgramFiles%	マシン毎	すべてのユーザーの共通ファイルディレクトリ
%CommonStartMenu%	マシン毎	すべてのユーザーのスタートメニューの項目ディレクトリ
%ComputerName%	マシン毎	コンピュータの名前です。ドメインで、認証された名前。
%Desktop%	ユーザー毎	ユーザ専用デスクトップディレクトリ
%Favorites%	ユーザー毎	ユーザーのお気に入りは、このディレクトリに保存されます。
%History%	ユーザー毎	ユーザーの Internet Explorer ブラウザの履歴を検索する場所
%LocalApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用ローカル AppData ディレクトリ。これらの設定はローミングプロファイルでは移動しません。
%MyMusic%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ミュージック}のディレクトリ
%MyPictures%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ピクチャ]のディレクトリ
%MyDocuments%	ユーザー毎	ユーザーの「マイ ドキュメント」ディレクトリ
%Personal%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ドキュメント]のディレクトリ
%Profiles%	マシン毎	システムがユーザーのディレクトリを保存する場所
%Programs%	ユーザー毎	ユーザーのスタートメニューのプログラム
%ProgramFiles%	マシン毎	システムがプログラムを保存する場所
%QuickLaunch%	ユーザー毎	ユーザーのクイック起動のプログラム
%System%	マシン毎	システムファイルがインストールされる場所

%UserName%	ユーザー毎	ユーザーのログイン名(*フルネームではない*)
%UserProfile%	ユーザー毎	ユーザーの[プロファイル]または[ホーム]のディレクトリ。
%WinDir%	マシン毎	Windows がインストールされる場所

復元する

Desktop Management > [デスクトップ移行] > [復元]

- このページはDesktop Migrationがインストールされているときにのみ表示されます。

復元ページは、ユーザー設定の単一のマシン ID への復元を 2 つのステップでスケジュールします。

1. 最初に、使用するソースマシンのバックアップを選択します。
2. 2 番目のページが表示され、復元のスケジュールが可能になり、復元に含めるローカルユーザーアカウントおよび**保存された設定** 『35 ページ 』を選択します。

これらのページで表示するマシン ID に対して：

- ソースマシンとターゲットマシンの両方で、**[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用して **Desktop Migration** クライアントがインストールされている必要があります。
- Desktop Migration のソースマシンには、**[バックアップ]** 『30 ページ 』を使用して設定やローカルユーザーのアカウント情報が保存されている必要があります。

2 番目のページのアクション

- **スケジュール** - このボタンをクリックすると、VSA 全体でタスクをスケジュールするために使用する[**スケジューラ**]ウインドウが表示されます。このタスクを*一度*計画する以下のオプション含まれています：
  - **配布ウインドウ** - ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、あるタスクの実行時間が午前 3:00 にスケジュールされ、配布期間が 1 時間の場合、タスクが午前 3:00～午前 4:00 のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。
  - **オフラインなら省く** - これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシンがオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
  - **オンラインなら電源起動** - Windows のみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの電源をオンにします。同じ LAN 上で、Wake-On-LAN または vPro と、他の運営しているシステムが必要です。
- **以下の時間範囲を除外する** - **配布期間にのみ適用されます。**チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。
- **すぐに復元**- 選択したマシン ID をすぐに復元します。
- **キャンセル** - 選択したマシン ID からスケジュール済みの復元を削除します。
- **別のソースマシンを選択** - 復元元となるソースマシンを変更します。
- **適用する設定の編集** - ローカルユーザーアカウント、システム設定、アプリケーション設定および復元するファイルに対して**保存された設定** 『35 ページ 』を編集します。これらの変更は現在の復元にのみ適用され、ソースのバックアップファイルには適用されません。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます。

- オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

ターゲット Machine ID.Group ID

ユーザー設定とローカルユーザーアカウントを復元する、ターゲット machine ID.group ID。**別のソースマシンを選択**のリンクをクリックして、別の復元元となる machine ID.group ID を選択します。

ソースマシン

ユーザー設定を復元しているソースマシン ID。

ソースユーザー設定パッケージ

このマシン ID の復元で使用しているユーザー設定。**適用する設定の編集**をクリックして、復元しているローカルユーザーアカウント、システム設定および安全設定を変更します。これらの変更は現在の復元にのみ適用され、ソースのバックアップファイルには適用されません。

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックマーク✔が表示され、マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされている期間および時間に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

次の復元時間

このテンプレートの適用が計画されている次の時間です。 日付/時間期限切れスタンプは赤の文字に黄色のマーカーで表示されます。

保存された設定 - 復元

Desktop Management > [ファイルと設定] > [復元] > [ソース設定] > [編集]

- このページはDesktop Migrationがインストールされているときにのみ表示されます。

保存された設定ダイアログボックスは、ソース設定バックアップで保存されていた、ローカルユーザーアカウント、システム設定、アプリケーション設定、ファイルのセットを表示します。このダイアログボックスによって、ローカルユーザーアカウント、システム設定、アプリケーション設定、および復元しているフィルターを変更できます。これらの変更は現在の復元にのみ適用され、ソース設定のバックアップには適用されません。デフォルトでは、選択したマシンは保存された設定を作成するために使用したマシンと同じですが、別のマシンを選択することも可能です。

ユーザー

保存されたすべてのユーザーの設定を復元する - これらのローカルユーザーアカウントに対するすべてのローカルユーザーアカウントおよびすべての選択した設定はターゲットマシンで復元されます。

以下のユーザーの設定を復元する - 復元するローカルユーザーアカウントを選択します。すべての*選択した*ローカルユーザーアカウントおよびこれらのローカルユーザーアカウントに対するすべての選択した設定はターゲットマシンで復元されます。

システム設定

ターゲットマシンで復元する、それぞれのシステム設定をチェックします。

アプリケーション設定

ターゲットマシンで復元する、それぞれのアプリケーション設定をチェックします。

ファイル

ファイル、ディレクトリまたはファイルのタイプをファイル拡張子によって含めたり、除外します。除外が優先します。例：`.doc .ppt .xls`

% 文字を最初の文字として入力すると、ファイルやディレクトリの指定で使用できる変数のリストが表示されます。変数には以下があります：

%AppData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%ApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%CommonApplicationData%	マシン毎	すべてのユーザーの AppData ディレクトリ
%CommonDesktop%	マシン毎	すべてのユーザーのデスクトップディレクトリ
%CommonDocuments%	マシン毎	すべてのユーザーのドキュメントディレクトリ
%CommonProgramFiles%	マシン毎	すべてのユーザーの共通ファイルディレクトリ
%CommonStartMenu%	マシン毎	すべてのユーザーのスタートメニューの項目ディレクトリ
%ComputerName%	マシン毎	コンピュータの名前です。ドメインで、認証された名前。
%Desktop%	ユーザー毎	ユーザ専用デスクトップディレクトリ
%Favorites%	ユーザー毎	ユーザーのお気に入りは、このディレクトリに保存されます。
%History%	ユーザー毎	ユーザーの Internet Explorer ブラウザの履歴を検索する場所
%LocalApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用ローカル AppData ディレクトリ。これらの設定はローミングプロファイルでは移動しません。
%MyMusic%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ミュージック}のディレクトリ
%MyPictures%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ピクチャ]のディレクトリ
%MyDocuments%	ユーザー毎	ユーザーの「マイ ドキュメント」ディレクトリ
%Personal%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ドキュメント]のディレクトリ
%Profiles%	マシン毎	システムがユーザーのディレクトリを保存する場所
%Programs%	ユーザー毎	ユーザーのスタートメニューのプログラム
%ProgramFiles%	マシン毎	システムがプログラムを保存する場所

%QuickLaunch%	ユーザー毎	ユーザーのクイック起動のプログラム
%System%	マシン毎	システムファイルがインストールされる場所
%UserName%	ユーザー毎	ユーザーのログイン名(*フルネームではない*)
%UserProfile%	ユーザー毎	ユーザーの[プロファイル]または[ホーム]のディレクトリ。
%WinDir%	マシン毎	Windows がインストールされる場所

移行

Desktop Management > [デスクトップ移行] > [移行]

- このページはDesktop Migrationがインストールされているときにのみ表示されます。

[**移行**]ページでは、ユーザー設定の 1 台以上のマシン ID への移行をスケジュールします。これらのページで表示するマシン ID に対して：

- ソースマシンとターゲットマシンの両方で、**[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用して **Desktop Migration** クライアントがインストールされている必要があります。
- Desktop Migration のソースマシンには、**[バックアップ]** 『30 ページ 』を使用して設定やローカルユーザーのアカウント情報が保存されている必要があります。

構成

1. それぞれのマシン ID に対して、移行するソースマシンを**ソースマシン**列から選択します。
2. **ソース設定**列から、復元するバックアップを選択します。
3. オプションで、**ソース設定**列の**編集**ボタンをクリックして、ローカルユーザーアカウントおよび**保存された設定** 『39 ページ 』を選択して移行に含めます。これらの変更は現在の移行にのみ適用され、ソースバックアップファイルには適用されません。デフォルトでは、移行ですべてのローカルユーザーアカウントが選択されます。**移行先ユーザーを追加**することもできます。この機能を使用して、移行時に既存のローカルユーザーアカウントの名前を変更します。新しいユーザーを指定した後、既存のローカルユーザーアカウントに対して新しいユーザーを**移行先ユーザー**として選択します。
4. 移行するマシン ID を選択します。
5. **スケジュール**または**すぐに移行**ボタンをクリックして、移行をスケジュールします。

アクション

このページは以下のアクションを提供します：

- **スケジュール** - このボタンをクリックすると、VSA 全体でタスクをスケジュールするために使用する[**スケジューラ**]ウインドウが表示されます。このタスクを*一度*計画する以下のオプション含まれています：
  - **配布ウインドウ** - ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、あるタスクの実行時間が午前 3:00 にスケジュールされ、配布期間が 1 時間の場合、タスクが午前 3:00～午前 4:00 のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。

- **オフラインなら省く** - これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシンがオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
- **オンラインなら電源起動** - Windows のみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの電源をオンにします。同じ LAN 上で、Wake-On-LAN または vPro と、他の運営しているシステムが必要です。
- **以下の時間範囲を除外する** - **配布期間にのみ適用されます。**チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。

- **すぐに移行**- 選択したマシン ID をすぐに移行します。
- **キャンセル** - 選択したマシン ID からスケジュール済みの移行を削除します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます。

 オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています

 エージェントがオンライン

 エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。

 エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません

 エージェントが現在オフライン

 エージェントが今までチェックインしたことがない

 エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動

 エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

マシンがオフラインの場合はスキップする

チェックマーク✔が表示され、マシンがオフラインの場合は、スキップして次にスケジュールされている期間および時間に実行します。チェックマークが表示されない場合、スケジュールした時間後にマシンが接続するとすぐにこのタスクを実行します。

次の復元時間

このテンプレートの適用が計画されている次の時間です。 日付/時間期限切れスタンプは赤の文字に黄色のマーカーで表示されます。

保存された設定 - 移行

Desktop Management > [ファイルと設定] > [移行] > [ソース設定] > [編集]

- このページはDesktop Migrationがインストールされているときにのみ表示されます。

保存された設定ダイアログボックスは、ソース設定バックアップで保存されていた、ローカルユーザーアカウント、システム設定、アプリケーション設定、ファイルのセットを表示します。このダイアログボックスによって、ローカルユーザーアカウント、システム設定、アプリケーション設定、および移行しているフィルターを変更できます。これらの変更は現在の移行にのみ適用され、ソース設定のバックアップには適用されません。

ターゲットマシンはソースマシンとは別のマシンと想定されますが、**移行**を使用して同じマシンに設定を復元できます。

ユーザー

ソースユーザー/移行先ユーザー - デフォルトでは、移行ですべてのローカルユーザーアカウントが選択されます。移行したいすべてのローカルユーザーアカウントをチェックします。オプションで、ターゲットマシンのそれぞれのローカルユーザーアカウントの名前を変更します。これらのローカルユーザーアカウントのすべての選択した設定が、ターゲットマシンで復元されます。

移行先ユーザーの追加 - ターゲットマシンでローカルユーザーアカウントを追加します。ユーザー名とパスワードを入力して、パスワードを確認します。これらの追加のローカルユーザーアカウントのすべての選択した設定が、ターゲットマシンで作成されます。

システム設定

ターゲットマシンで復元する、それぞれのシステム設定をチェックします。

アプリケーション設定

ターゲットマシンで復元する、それぞれのアプリケーション設定をチェックします。

ファイル

ファイル、ディレクトリまたはファイルのタイプをファイル拡張子によって含めたり、除外します。除外が優先します。例：`.doc .ppt .xls`

% 文字を最初の文字として入力すると、ファイルやディレクトリの指定で使用できる変数のリストが表示されます。変数には以下があります：

%AppData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%ApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用 AppData ディレクトリ
%CommonApplicationData%	マシン毎	すべてのユーザーの AppData ディレクトリ
%CommonDesktop%	マシン毎	すべてのユーザーのデスクトップディレクトリ
%CommonDocuments%	マシン毎	すべてのユーザーのドキュメントディレクトリ
%CommonProgramFiles%	マシン毎	すべてのユーザーの共通ファイルディレクトリ
%CommonStartMenu%	マシン毎	すべてのユーザーのスタートメニューの項目ディレクトリ
%ComputerName%	マシン毎	コンピュータの名前です。ドメインで、認証された名前。
%Desktop%	ユーザー毎	ユーザ専用デスクトップディレクトリ
%Favorites%	ユーザー毎	ユーザーのお気に入りは、このディレクトリに保存されます。

%History%	ユーザー毎	ユーザーの Internet Explorer ブラウザの履歴を検索する場所
%LocalApplicationData%	ユーザー毎	ユーザ専用ローカル AppData ディレクトリ。これらの設定はローミングプロファイルでは移動しません。
%MyMusic%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ミュージック}のディレクトリ
%MyPictures%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ピクチャ]のディレクトリ
%MyDocuments%	ユーザー毎	ユーザーの「マイ ドキュメント」ディレクトリ
%Personal%	ユーザー毎	ユーザーの[マイ ドキュメント]のディレクトリ
%Profiles%	マシン毎	システムがユーザーのディレクトリを保存する場所
%Programs%	ユーザー毎	ユーザーのスタートメニューのプログラム
%ProgramFiles%	マシン毎	システムがプログラムを保存する場所
%QuickLaunch%	ユーザー毎	ユーザーのクイック起動のプログラム
%System%	マシン毎	システムファイルがインストールされる場所
%UserName%	ユーザー毎	ユーザーのログイン名(*フルネームではない*)
%UserProfile%	ユーザー毎	ユーザーの[プロファイル]または[ホーム]のディレクトリ。
%WinDir%	マシン毎	Windows がインストールされる場所

管理

Desktop Management > [デスクトップ移行] > [管理]

- このページは**Desktop Migration**がインストールされているときにのみ表示されます。

[**管理**]ページでは、Desktop Migration のバックアップ、復元、および移行に関連するすべてのタスクを、マシン ID 別およびバックアップ別でまとめて一元管理できます。

- バックアップの内容を**閲覧**します。
- このバックアップのログを**表示**します。
- バックアップの**名前を変更**します。
- バックアップを**削除**します。*このバックアップがロックされている場合は無効です。*
- マシンをこのバックアップに**復元**します。
- このバックアップを新しいマシンに**移行**します。
- 自動的に削除されないように、このバックアップを**ロック**します。

データ設定

Desktop Management > [デスクトップ移行] > [データ設定]

- このページは**Desktop Migration**がインストールされているときにのみ表示されます。

データ設定ページは、マシン ID が設定のバックアップを保存するために使用するディレクトリおよび保存可能な多数の設定のバックアップを指定します。 **バックアップ** 『30 ページ 』、**復元** 『34 ページ 』および**移行** 『37 ページ 』を使用して、*個別の*ユーザー設定にだけ適用します。ポリシー

およびデスクトップ標準ユーザー設定は、Kaseya Server に保存されます。このページにマシンを表示するには、**[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用してマシンに Desktop Migration クライアントがインストールされている必要があります。

マップされたドライブ文字はサポートされません。パスは、完全な UNC パスでなければなりません。たとえば`\\machinename\share`のように、エージェントマシンがアクセスする共有への UNC パスを指定するときには、[エージェント] > [資格情報の設定]でそのエージェントマシンに指定する資格情報を使用しての読み取り/書き込みアクセスを、共有の権限で確実に許可してください。

場所を設定

設定をクリックして、設定のバックアップが保存されるパスを指定します。

場所をクリア

ｸﾘｱをクリックして、設定のバックアップが保存されるパスを削除します。

設定ファイルのパス

設定のバックアップが保存されるパスを入力します。

自動更新

このチェックボックスを選択すると、ページング部分が 5 秒毎に更新されます。

<N>個のバックアップを保存/最大を設定

マシン毎に保持できるバックアップの最大数を指定します。1 つまたは複数のマシン ID を選択します。[**<N>個のバックアップを保存**]編集ボックスに数値を入力して、[**最大を設定**]ボタンををクリックします。最大で 99 までのバックアップを指定できます。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

管理される設定のパス

マシン ID に割り当てられる設定のバックアップのパスを表示します。

空きスペース

マシン ID のバックアップの場所として使用可能な空きスペースを表示します。「?」が表示されたら、**チェック**ボタンをクリックして、十分な空きスペースが存在するか決定します。

移行警報

Desktop Management > [デスクトップ移行] > [移行警報]

- このページはDesktop Migrationがインストールされているときにのみ表示されます。

[**移行警報**]ページでは、次の KDPM ページを使用してスケジュールされたバックアップ、復元、およ

び移行の各イベントの成功または失敗に応じた警報を作成します。

- **バックアップ** 『30 ページ 』
- **復元する** 『34 ページ 』
- **移行** 『37 ページ 』

Desktop Migration の管理マシンの**[データ設定]** 『40 ページ 』パスの空きスペースが指定した値未満になった場合も、警報が作成されます。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID のフィルターおよび使用しているスコープにより異なります。 このページにマシンを表示するには、**[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用してマシンに Desktop Migration クライアントがインストールされている必要があります。

警報を作成するには

1. これらのチェックボックスのいずれかをチェックすると、警報条件の発生時に、対応するアクションが実行されます。
   - **ア**ラームを作成
   - **チ**ケットを作成
   - **ス**クリプトを実行
   - **E** メール受信者
2. 追加の E メールパラメータを設定します。
3. 以下のうちのどれかを選択します：
   - バックアップ成功
   - バックアップ失敗
   - 管理される設定パスの空きスペースが X MB 未満
   - 復元成功
   - 復元失敗
   - 移行成功
   - 移行失敗
   - バックアップ削除
   - バックアップロック
   - バックアップロック解除
4. 警報設定を適用するマシン ID をチェックします。
5. **設定**をクリックして、選択したマシン ID に警報設定を割り当てます。

警報設定をコピーするには

1. [すべての設定のコピー元]を選択します。
2. [*（クリックして選択）*]をクリックして、警報設定のコピー元にする **Desktop Migration** の管理マシンを選択します。
3. 警報設定を適用するマシン ID をチェックします。
4. **設定**をクリックして、選択したマシン ID に警報設定を割り当てます。

アラームの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとアラームが作成されます。アラームは、[モニター] > [ダッシュボードリスト]、[モニター] > [アラームサマリ]、および[情報センター] > [レポーティング] > [レポート] > [ログ] > [アラームログ]に表示されます。

チケットの作成

チェックした場合、警報条件が発生するとチケットが作成されます。

スクリプトを実行する

チェックした場合、警報条件が発生するとエージェント手順が実行されます。実行するエージェント手順を選ぶには、**エージェント手順の選択**リンクをクリックしなければなりません。**このマシン ID** リンクをクリックすることで、マシン ID の特定レンジでエージェント手順を作動させることができます。指定するこれらのマシン ID を、警報条件が発生したマシン ID と一致させる必要はありません。

E メールを送信する。

チェックした場合、警報条件が発生すると、E メールが指定 E メールアドレスに送信されます。

- **現在のリストに追加**ラジオボタンオプションを選択し、 **適用**をクリックすると、警報設定が適用され、以前に指定された E メールアドレスはそのままで、指定された E メールアドレスが加えられます。
- **リストの置き換え**ラジオボタンオプションを選択し、**適用**をクリックすると、警報設定が適用され、指定された E メールアドレスが、現存の E メールアドレスと置き換わります。
- **取り除く**をクリックすると、**どの警報パラメータも修正することなく**全 E メールアドレスが取り除かれます。
- E メールは、警報で指定された E メールアドレスに Kaseya Server から直接送信されます。[**発信元アドレス**]を設定するには、[システム] > [アウトバウンド E メール]を使用します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます。

- オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

警報名

各マシン ID にあり得る警報をリストアップします。

応答

各マシン ID の各警報に指定された ATSE 反応コード：

- A = **ア**ラームを作成
- T = **チ**ケットを作成
- S = 起動 **スクリプト**
- E = **E** メール受信者

起動するスクリプト

この警報条件が発生したときに、実行するスクリプトです。

スクリプト実行をオンにする

この警報条件が発生したときに、スクリプトを実行するマシン ID です。

E メール宛先

通知が送信される E メールアドレスのコンマ区切りのリスト。

インストール/削除

Desktop Management > [共有KDP] & [KDMの設定] > [インストール/削除]

[**インストール/削除**]ページでは、選択したマシンで **Desktop Policy** および **Desktop Migration** のクライアントソフトウェアのインストール、アンインストール、および確認を行います。クライアントおよび関連サポートファイルは通常、`C:\Program Files\Kaseya\<AgentGUID>\User State Management` にインストールされます。

> **注：** [エージェント] > **[資格情報の設定]** 『**http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#352.htm** を見て 』を使用して、**Desktop Policy** および **Desktop Migration** のクライアントソフトウェアに、マシン ID に対応する資格情報が設定されている必要があります。一般に、マシンを管理する場合、ドメイン管理者証明書を使用します。

ライセンシング

ページの上部に、**Desktop Policy** および **Desktop Migration** の使用中および利用可能のライセンス数が表示されます。ライセンスを管理するには、[システム] > **[ライセンスマネージャ]** 『**http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#2924.htm** を見て 』を使用します。

アクション

このページは以下のアクションを提供します：

Desktop Policy - チェックした場合、このクライアントがインストール、アンインストールまたは確認用に選択されます。

Desktop Migration - チェックした場合、このクライアントがインストール、アンインストールまたは確認用に選択されます。

- **スケジュール** - このボタンをクリックすると、VSA 全体でタスクをスケジュールするために使用する[**スケジューラ**]ウインドウが表示されます。このタスクを*一度*計画する以下のオプション含まれています：
  - **配布ウインドウ** - ネットワークのトラフィックやサーバーのローディングを広げるために、指定した期間数以下でランダムに選択した時間にタスクを再計画します。たとえば、

あるタスクの実行時間が午前 3:00 にスケジュールされ、配布期間が 1 時間の場合、タスクが午前 3:00～午前 4:00 のランダムな時刻に実行されるようにスケジュールが変更されます。

- **オフラインなら省く** - これをチェックすると、マシンがオフランなら、省略して、次の計画期間と時間を実行します。これをチェックしないでマシンがオフラインなら、マシンがオンラインになったときにすぐにタスクを実行します。
- **オンラインなら電源起動** - Windows のみ。チェックすると、オフラインの場合にマシンの電源をオンにします。同じ LAN 上で、Wake-On-LAN または vPro と、他の運営しているシステムが必要です。
- **以下の時間範囲を除外する** - **配布期間にのみ適用されます。**チェックした場合、配布期間内でタスクのスケジューリングを除外する時間範囲を指定します。配布期間外の時間範囲を指定すると、スケジューラにより無視されます。

- **すぐにインストール** - 選択したマシン ID に **Desktop Policy** および **Desktop Migration** のクライアントをインストールします。
- **インストールをキャンセル**- 選択したマシン ID で保留されているインストールまたはアンインストールをキャンセルします。
- **すぐにアンインストール** - 選択したマシン ID から **Desktop Policy** および **Desktop Migration** のクライアントをアンインストールします。
- **すぐに確認する** - 選択したマシン ID に **Desktop Policy** および **Desktop Migration** のクライアントが正しくインストールされていることを確認します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます。

- オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

ポリシー

チェックした場合、**Desktop Policy** クライアントがこのマシン ID にインストールされます。

移行

チェックした場合、**Desktop Migration** クライアントがこのマシン ID にインストールされます。

最新<version>/バージョン

*見出し列*は、使用可能なクライアントソフトウェアの最新バージョンを表示します。

*列の セル*には、このマシン ID にインストールされている **Desktop Policy** および **Desktop Migration** のクライアントソフトウェアのバージョンが表示されます。クライアントソフトウェアをこのマシン ID にインストールするようにスケジュールされている場合は、[インストール保留中]が表示されます。

検証済み

マシン ID で **Desktop Policy** および **Desktop Migration** のクライアントソフトウェアのインストールが確認済みである場合、タイムスタンプが表示されます。

最大ログエージ

Desktop Management > [共有KDP] & [KDMの設定] > [ログの最大保持期間]

[**ログの最大保持期間**]ページでは、**Desktop Policy** および **Desktop Migration** の管理マシンのログデータを保持する日数を指定します。指定した最大値より古いエントリーは自動的に削除されます。

Desktop Policy または **Desktop Migration** の操作を実行するたびに、各マシンのログが作成されます。ログには、実行するタスクの日付と時間、結果、および説明を含みます。

選択できるマシン ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルターにより異なります。このページにマシンを表示するには、**[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用してマシンに **Desktop Policy** および **Desktop Migration** のクライアントがインストールされている必要があります。

設定

設定 をクリックして、選択したマシン ID のログ日の最大数を指定します。

<N>日

バックアップのためのログ日の最大数を入力します。

すべて選択/すべて選択解除

すべて選択のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェックします。**すべて選択解除**のリンクをクリックして、ページのすべての行をチェック解除します。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます。

- オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません

- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

Machine.Group ID

表示される Machine.Group ID のリストは、マシン ID/グループ ID フィルタ、および[システム] > [ユーザーセキュリティ] > [スコープ]を使用して表示する権限をユーザーがもつマシングループによって異なります。

最大エージ

各マシン ID に割り当てられたログ日の最大数

ログ

Desktop Management > [共有KDP] & [KDMの設定] > [ログ]

[**ログ**]ページには、選択したマシン ID の **Desktop Policy** および **Desktop Migration** のログデータが表示されます。ログには、タスクの日付/時刻、タスクの成功または失敗、タスク名、および該当する場合は詳細なログデータが含まれます。**タスク名**のリンクをクリックして、実行したタスクに関する詳細を表示します。このページにマシンを表示するには、**[インストール/削除]** 『44 ページ 』を使用してマシンに **Desktop Policy** および **Desktop Migration** のクライアントがインストールされている必要があります。

チェックインステータス

これらのアイコンは、各管理マシンでのエージェントチェックインステータスを示します。チェックインアイコンの上にカーソルを置くと、エージェントの[クイック表示]ウィンドウが表示されます。

- オンラインなのですが、最初の監査が完了するのを待っています
- エージェントがオンライン
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしています。
- エージェントがオンラインで、ユーザーが現在ログインしていますが、10 分間ユーザーの動きがありません
- エージェントが現在オフライン
- エージェントが今までチェックインしたことがない
- エージェントがオンラインだが、リモートコントロールが不作動
- エージェントが延期された

Desktop Policy および Desktop Migration のレポート

このセクションで

Desktop Management - 省電力

[情報センター] > [レポーティング] > [レポート] > [Desktop Management] > [省電力]

- Desktop Policyアドオンモジュールがインストールされている場合にのみ表示されます。

パワーセーブページは、特定の電源ポリシーを使用して、どの程度の金額を節約できそうかの推定、または節約された金額、を示すレポートを生成します。独立した電源監査が標準監査の一部としてスケジュールされ、**Desktop Policy** *クライアントがインストールされていないマシンを含めて*、すべての管理マシンから電源設定を収集します。

比較設定

電源ポリシーがマシンに適用されるたびに電源監査が実行され、通常は毎日、最新の監査も実行されます。

- **マシンのベースライン監査の情報を以下と比較します：**
  - **比較対象** - 定義されている電源ポリシーを選択して、選択した電源ポリシーに切り替えると、どの程度節約できるかを見ます。
  - **すべてのマシンを含める** - チェックした場合、**Desktop Policy** がインストールされているマシンからの結果と共に、**Desktop Policy** がインストールされていないすべての Windows 2003 マシンおよび Windows XP マシンに関する独立した電源監査結果を含めます。デフォルトではチェックされています。Windows 2000、Vista、または 7 のマシンは含めません。
- **最も最近の電源監査データを以下と比較します：**
  - **比較対象** - ベースライン電源ポリシー - ベースライン電源ポリシーと各マシンの最新の監査を比較して、省電力量を示します。ベースライン電源ポリシーは、マシンに **Desktop Policy** がインストールされる前に実施されていた電源ポリシーです。
  - **比較対象** - 最後に配置した電源ポリシー - 最後に配置した電源ポリシーと各マシンの最新の監査を比較して、省電力量を示します。この値は、一部のユーザーが前回電源ポリシーが適用されてから設定を変更していない限り、最も最近の電源監査のデータと同じはずです。
- **レポート期間** - レポートのレポート期間を入力します：年、月、ベースライン収集時間から。

レポート値を設定する。

推定電源節約のベースとなる値を設定するか、それらのデフォルト値のままにします。

- **平均 PC ワット** - システムの PC が平均で使用するワット数を入力します。

- **平均モニターワット** - システムのモニターが平均で使用するワット数を入力します。
- **キロワット-時間*(kWh)*のコスト** - キロワット-時間(kWh)当たりのコストを入力します。
- **通貨記号** - **キロワット-時間(kWh)のコスト**フィールドに入力したコストに関連する通貨記号を入力します。この通貨記号は、レポートに表示されます。

詳細設定

以下の詳細設定に変更を行うか、それらのデフォルト値のままにします。

- **スタンバイ時の PC ワット** - PC がスタンバイモードにあるときに、平均で使用するワット数を入力します。
- **ワークステーションの一日当たり時間数** - ワークステーションを使用する、一日当たり時間数を入力します。
- **ワークステーションの一週当たり時間数** - ワークステーションを使用する、一週当たり時間数を入力します。
- **一日の終わりに電源をオフにするマシンの %** - 一日の終わりに実際に電源をオフにするマシンの数を入力します。
- **ワークステーションの年間アイドル日数(休日、祭日、など)** - 週末に加えて、ワークステーションが使用されない年間の平均日数を入力します。
- **次に基づいてマシンデータを選択する：**
  - **最大節約** - 選択すると、計算ではマシンの単一ユーザーを使用します。このユーザーは、他のユーザーはそのマシンを使用していないかのように、最高の推定電源節約を示します。これは、そのマシンでの最高の可能な電源節約を表しています。
  - **平均ユーザー** - 選択すると、計算ではそのマシンのすべてのユーザーがそのマシンに等しい時間づつログインしたかのような仮定で推定される電源節約の平均を使用します。これは、**最大節約**オプションと同等かより小さい電源節約推定値になります。
- **ハードドライブワット** - ハードドライブが使用するワット数を入力します。
- **サーバーの一日当たり時間数** - サーバーを使用する、一日当たり時間数を入力します。

> **注：** 名前に `Server` という語を含む OS は、このレポートではサーバーとして扱われます。

- **サーバーの一週当たり時間数** - サーバーを使用する、一週当たり時間数を入力します。
- **サーバーのモニターを含める** - チェックすると、計算では、各サーバーにはモニターが取り付けられており、モニターに対する電源設定も含まれると想定します。
- **ユーザー毎の設定を示す** - チェックすると、レポートは各マシンでの各ユーザーの節約を示します。

Desktop Management - ユーザーの状態

[情報センター] > [レポーティング] > [レポート] > [Desktop Management] > [ユーザーの状態]

- Desktop Policyアドオンモジュールがインストールされている場合にのみ表示されます。
- [Desktop Management] > [ステータス] 『10ページ 』で類似の情報が表示されます。

[**デスクトップポリシー**]ページでは、VSA が管理する次のタイプの **Desktop Policy** データのレポートを生成します。

Desktop Policy レポートに含めるサブトピックを選択します。

- **ユーザータイプを含める** - マシンの各ユーザーがメンバーになっているすべてのユーザーグループをリストアップします。

- **マップドライブを含める** - 各ユーザーのドライブのマッピングをリストアップします。
- **プリンターを含める** - 各ユーザーのプリンターのマッピングをリストアップします。
- **共有ポイントを含める** - マシンのすべてのディレクトリ共有をリストアップします。
- **データがないマシンを含める** - **Desktop Policy** 情報が収集されていないマシンを含めて、すべてのマシンのレポートのエントリーを表示します。

設定パッケージを作成

このセクションで

自分の設定パッケージを記載

Kaseya の **Desktop Policy** および **Desktop Migration** のソリューションは次の 2 つの部分から構成されています。ユーザーの状態をキャプチャするエンジン、およびどの状態を移動させるかを定義する**設定パッケージ**の大きなセットです。電源管理設定の設定パッケージ、他には Word の設定、さらにマウスの設定、などです。これらの設定パッケージのそれぞれは、エンジンに何をキャプチャするかを指示し、エンジンにどう処理するかの詳細を指示します。

設定パッケージは、宣言型言語を使用して、どの設定を持つかを指定します。この言語は XML の「方言」であり、好きなテキストエディタが使用できて、編集が簡単です。

基本的な設定パッケージは、次のとおりです：

```
<Package Category="Examples" Name="Pinball"
Type="Application" Platforms="Windows" Version="1">
    <Description>
        Migrates the music setting in the Pinball game.
    </Description>
    <Find>
        <Name>pinball.exe</Name>
        <Location Type="file" File="%programfiles%\Windows NT\Pinball\PINBALL.EXE" />
    </Find>
    <Component>
        <Setting Name="Music" Type="boolean">
               <Location Type="registry" DataType="dword">
                 HKCU\Software\Microsoft\Plus!\Pinball\Music
            </Location>
        </Setting>
    </Component>
</Package>
```

設定の検索

なんでも移行できるために、設定がどこに保存されるかを知る必要があります。ここに、これを達成するための若干のツールと、その使い方があります。

- **Regedit** - これは OS と共に出荷されている偉大なツールであり、何もインストールする必要はありません。これによって、レジストリーを検索し、アプリケーションがここにある値をどのように変更するかを正確に見ることができます。対象となるレジストリーキーをエクスポートして、適切な変更を行ってから、エクスポートした値と現在の値を比較します。多くのアプリケーションは、シャットダウンする時にだけレジストリーに変更を書き込むことに注意してください。
- **RegMon** - レジストリーの単一の設定をモニターしたい場合は、Microsoft の RegMon を使ってください。これによって、レジストリーのイベントを発生したとおりに見ることができますが、非常に余分な情報も多いです。フィルターを使って—トップに小さなじょうごを置いて—情報の量を減らしてください。
- **FileMon** - RegMon がレジストリーに行うことと同じことを、FileMon はファイルに対して行います。ノイズが多いという同じ問題がありますので、非常に似ているフィルタリングの技法を使用する必要があります：作業をしているアプリケーションからのアクセスだけを表示できます。

変数

OS のユーザーの状態をインストールして、構成する無数の方法があるので、一般的なディレクトリ用の変数を使用する必要があります。これによって、変化する環境でも設定パッケージをより堅固にできます。Microsoft が何かが保存されている場所を変更した場合—たとえば、Vista では、多くの変更がありました—変数が適切なディレクトリを正しく探してくれます。

すべての変数は、Windows-スタイルでパーセント記号で囲まれています：`%MyVariable%`。大文字、小文字は区別されません。

変数名	説明
ユーザー情報	
`%appdata%, %applicationdata%`	ユーザ専用 AppData ディレクトリ。
`%cookies%`	ユーザーの Internet Explorer の Cookies 用ディレクトリ。
`%desktop%`	ユーザ専用デスクトップディレクトリ。
`%favorites%`	ユーザーのお気に入りは、このディレクトリに保存されます。
`%history%`	ユーザーの Internet Explorer ブラウザの履歴用ディレクトリ。
`%internetcache%`	Internet Explorer のキャッシュ用ディレクトリ。
`%localapplicationdata%`	ユーザ専用ローカル AppData ディレクトリ。これらの設定はローミングプロファイルでは移動しません。
`%mymusic%`	ユーザーの[マイ ミュージック]のディレクトリ。
`%mypictures%`	ユーザーの[マイ ピクチャ]のディレクトリ。
`%personal%`	ユーザーの[マイ ドキュメント]のディレクトリ。
`%profile%, %userprofile%`	ユーザーの[プロファイル]または[ホーム]のディレクトリ。
`%programs%`	ユーザーのスタートメニューのプログラム用ディレクトリ。
`%quicklaunch%`	ユーザーのクイック起動のプログラム用ディレクトリ。
`%recent%`	ユーザーの「最近使用した項目」ディレクトリ
`%sendto%`	ユーザーの「送る」プログラム用ディレクトリ。
`%startmenu%`	ユーザー固有のスタートメニューの項目用ディレクトリ。
`%startup%`	ユーザー固有のスタートアップ項目用ディレクトリ。

%tempdirectory%	ユーザ専用一時的ディレクトリ。
%templates%	ユーザーのテンプレートのディレクトリ。
%username%	ユーザーのログイン名(*フルネームではない*)。
共通ファイル	
%commonapplicationdata%	すべてのユーザーの AppData ディレクトリ。
%commondesktop%	すべてのユーザーのデスクトップディレクトリ。
%commondocuments%	すべてのユーザーのドキュメントディレクトリ。
%commonprogramfiles%	すべてのユーザーの共通ファイルディレクトリ。
%commonstartmenu%	すべてのユーザーのスタートメニューの項目ディレクトリ。
%fonts%	システムがフォントを保存する場所
%profiles%	システムがユーザーのディレクトリを保存する場所。
%programfiles%	システムがプログラムを保存する場所。
%os%	OS をインストールする場所。
%system%	システムファイルがインストールされる場所。
%windir%	Windows がインストールされる場所。
コンピュータ情報	
%computername%	このコンピュータの名前。ドメインで承認されている必要があります。

どこにファイルを配置するか

パッケージが準備できたら、Kaseya Server の %KSERVER_ROOT%\WebPages\ManagedFiles\VSAHiddenFiles\KUSM\ClientApp\SettingsPackages に置きます。そのフォルダを作成できる必要があります。

権限

設定パッケージは、ユーザーアクセス権を持つユーザーが読み取りアクセスできる必要があります。一般的には、全員にグループの読み取りアクセス権を付与するのが最も簡単です。

パッケージ

<Package/>要素が、パッケージのルートレベルです。定義しているパッケージを特定し、パッケージ選択ユーザーインターフェースのどこに表示するかを特定します。

属性	説明	可能な値	必須ですか？
Category	設定パッケージ識別子の一部です。カテゴリーを使用して、どのパッケージがカスタムパッケージであるかを示します。	任意のテキスト。これは会社または組織を特定するはずなので、Kaseya が提供する将来の設定パッケージはユーザーのカスタム設定パッケージとは矛盾しません。たとえば、Category="MIT"または Category="MIT-Physics"を使用します。	はい
DisplayCategory	このパッケージが、パッケージ選択ユーザーインターフェースで表示され	任意のテキスト。Category とは異なり、会社や組織を指定する必要はありません。ただし、必要に応じて指定できます。	はい

	るカテゴリーです。		
Name	このパッケージが、パッケージ選択ユーザーインターフェースで表示される名前です。	任意のテキスト。	はい
Type	このパッケージが、パッケージ選択ユーザーインターフェースのどの部分で表示されるか。	Application または System	はい
Platforms	このパッケージが適用されるプラットフォームのパイプ区切りのリスト。	Windows	はい
Version	これが、パッケージのどのバージョンであるかを特定します。	任意の数字。	はい

子供	最小	最大
<Description/> 『55 ページ 』	1	1
<Find/> 『55 ページ 』	1	任意
<Process/>『58 ページ 』	0	任意
<Component/> 『58 ページ 』	1	1

説明

この<Description/>要素はパッケージ選択ユーザーインターフェースで使用され、このパッケージの詳細な説明を提供します。現在は使用していませんが、将来は使用する予定です。

属性	説明	可能な値	必須ですか？
なし			

子供	最小	最大
パッケージ選択インターフェースに表示されるテキスト。パッケージが何を移動し、何を警告するかを説明する必要があります。	なし	なし

検索

<Find>要素は、このパッケージが適用可能かどうかを判断する方法を説明します。<Find/>ブロッ

クのいずれかが実行可能ファイルを検出できる場合、このパッケージが使用されます。

満足

<Find/>ブロックは、適切な実行可能ファイルを検出した場合に"満たされた"ことになります。<Find/>ブロックは常に、その子の<Name/>要素で指定された名前をもつファイルをディスク上で探します。<Find/>要素は、<Location/>タグを使用して、実行可能ファイルが存在する場所を調べます。それぞれは、文字列の値を探し、次に適切な名前のフィールドをポイントしているか確認します。<Location/>が実際のファイルのパスを検出したが、ファイル名が<Name/>要素と一致しない場合は、<Find/>ブロックは満たされません。ブロックが満たされるのは、<Location/>がパスを検出し、そのパスが<Name/>要素と一致する、適切な名前をもつファイルをポイントしている場合のみです。

複数の EXE 名

移行するアプリケーションが複数の異なる名前（たとえば、1 つは 32 ビットシステム用で、もう 1 つは 64 ビットシステム用）をもつ可能性がある場合、名前ごとに 1 つずつ、複数の<Find/>ブロックを指定する必要があります。

```
<Find>
    <Name>Crunch64.exe</Name>
    <Location Type="file" File="%programfiles%\Crunch\Crunch64.exe" />
    <Location Type="registry" SubType="value">
        HKCU\Software\Crunch\NativeLocation
    </Location>
</Find>
<Find>
    <Name>Crunch32.exe</Name>
    <Location Type="file" File="%programfiles%\Crunch\Crunch32.exe" />
    <Location Type="registry" SubType="value">
        HKCU\Software\Crunch\NativeLocation
    </Location>
</Find>
```

評価の順番

<Find/>ブロックは、ドキュメントの順番に評価されます。最初のものがまず評価され、二番目は二番目に、など以下同様です。どれかのブロックが「満足」すると、評価は終わり、以後のブロックは無視されます。このように、どの実行可能形式が見つかるかが重要であるならば、リストの最上位により望ましいものを配置しなければなりません。

見つける必要がない場合

時には、必ず存在するとわかっている何かに対するパッケージを書くことがあります。たとえば、システムのコンポーネントまたは組み込みのアプリケーションなどです。このような場合、<Find/>ブロックを完全に取り除くことができます。エンジンはこれを自動的に「満足」と取扱い、設定パッケージを移行します。

属性	説明	可能な値	必須ですか？
なし			

子供	最小	最大
<Name/> 『57 ページ』	1	1

<Location/> 『57 ページ 』	1	任意

名称を見つける

<Find><Name/></Find>要素は、<Location/>タグ内で何を検索するかを定義します。値が見つかるすべての場所で、エンジンはその値をパスに変換して、パスにこの名前があるファイルを探します。**満足** 『55 ページ 』を参照。

属性	説明	可能な値	必須ですか？
なし			

子供	最小	最大
探すファイルを指定するテキスト。**満足** 『55 ページ 』を参照。	なし	なし

場所を見つける

<Find><Location/></Find>要素は、親の<Find/>ブロックを満たす場所*（存在する場合）*をポイントします。使用する場所の Type にかかわらず、エンジンはその値をパスとして使用し、<Name/>タグが指定する名前をもつファイルを検索します。**満足** 『55 ページ 』を参照。

ファイルを見つける

ファイルの場所は、最も簡単に実行可能形式を見つける方法ですが、最も不安定な方法でもあります。大半のインストーラではファイルを配置する場所を選べるので、これは一般的には最善の解決策ではありません。ここではすべての**変数** 『52 ページ 』が使用可能であることに注意してください。

```
<Location Type="file"
     File="%programfiles%\Adobe\Illustrator 10\Illustrator.exe" />
```

レジストリーでの検索

2 番目に簡単な実行可能形式を見つける方法は、大半のインストーラが参照を保存するレジストリーへのパスを見つけることです。これは、インストーラが任意の場所にファイルを配置できる場合に対処できます。

```
<Location Type="registry" SubType="value">
     HKLM\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\App Paths\Acrobat.exe
</Location>
```

属性	説明	可能な値	必須ですか？
Type	これがどんなタイプの場所かまた、エンジンがどのようにしてそれを見に行こうとしているかを特定します。	file, registry	はい

SubType	その場所のどの部分を使用するか特定します。	値	いいえ
File	Type="file"の場合、親の<Find/>ブロックを満たすために使用されるファイル*（存在する場合）*を指定します。	ファイルへのパス	いいえ

子供	最小	最大
テキスト：Type="registry"の場合、テキストは調べるキーのレジストリパスです。	なし	なし

プロセス

<Process/>要素は、移行中のエンジンにプロセスの停止を指示します。そのプロセスが、移行する必要があるファイルをロックしている場合に必要です。

属性	説明	可能な値	必須ですか？
Stop	true の場合、移行の前に、このプロセスが開いていれば停止します。	true または false。存在しない場合は、false と見なされます。	いいえ

子供	最小	最大
テキスト：関与するプロセスの名前。例: iexplore.exe	なし	なし

コンポーネント

<Component/>要素は、このパッケージにより移行されるすべての<Setting/>タグをグループ化します。ほとんどすべてのパッケージに、その<Setting/>タグをすべて格納する単一の<Component/>があります。

属性	説明	可能な値	必須ですか？
なし			

子供	最小	最大
<Setting/> 『59 ページ 』	0	任意
<SettingsList/>『62 ページ 』	0	任意

設定

`<Setting/>`要素は、このパッケージが移行する設定を記述します。

マッピング

すべての文字列が、ソースから移行先へマップされます。プログラムファイルのディレクトリがマシンによって変化する場合、エンジンが通知し、そこをポイントするパスを訂正します。同様に、ユーザーのドキュメントフォルダが移動した場合、適用する前にパスが更新されます。

レジストリーパスの別名

多くの設定はレジストリーに保存され、レジストリーパスによって参照されます。以下の別名がエンジンによって認識され、設定パッケージを読みやすくします。別名を使用するすべての例。

別名	参照先
HKCU	HKEY_CURRENT_USER
HKLM	HKEY_LOCAL_MACHINE
HKCR	HKEY_CLASSES_ROOT
HKU	HKEY_USERS
HKCC	HKEY_CURRENT_CONFIG
HKDD	HKEY_DYN_DATA
HKPD	HKEY_PERFORMANCE_DATA

設定内での設定

設定をグループ化する際に便利であり、設定パッケージが読みやすくなります：

```
<Setting Name="Security">
    <Setting Name="EnablePGP">
        <Location Type="registry" SubType="value">
            HCKU\Software\Crunch\EnablePGP
        </Location>
    </Setting>
    <Setting Name="RequirePassword">
        <Location Type="registry" SubType="value">
            HCKU\Software\Crunch\PasswordRequired
        </Location>
    </Setting>
</Setting>
```

これは設定パッケージ内での単なる論理的グループであることに注意してください。それらの設定がどのように保存されているかに対応する必要はありません。任意の数の設定を任意の深さでグループ化できます。

こうした設定の名前も、少し異なっています。ネストされている設定には、**認証された名前**があり、それはその親の認証された名前、順方向のスラッシュ、そしてそれ自体の名前で構成されます。したがって、これらの設定の修飾名は`Security/EnablePGP`および`Security/RequirePassword`になります。

`registry/subkey`の指定によるキーツリーの移行

たいていの場合は、レジストリーキーの全体、そのすべての値、そのすべてのサブキー、およびそのすべての値を移動したいと思うでしょう。これは`Type="registry" SubType="subkey"`を指定することで実現できます。

```
<Setting Name="CrunchSettings">
    <Location Type="registry" SubType="subkey">
```

```
            HKCU\Software\Crunch
        </Location>
    </Setting>
```

すべての文字列は自動的にマップされ、すべてのデータタイプは自動的に決定されます。一定の場合に、レジストリーに移行したいファイルへのパスが含まれていれば、そうしたパスはファイルパスを使用して個別に取り扱えるはずです。`registry/subkey` を使用する方法をまず試してください。他のレジストリの `SubType` は必要な場合にのみ使用してください。

`registry/value` の指定によるレジストリ値の移行

レジストリーの値はそのパスを与えて移行できます：

```
<Setting Name="ReticulateSplines">
    <Location Type="registry" SubType="value">
        HKCU\Software\Crunch\ReticulateSplines
    </Location>
</Setting>
```

`registry/valueexistence` の指定による、レジストリ値の有無によらない移行

時にはアプリケーションにはレジストリーの値に関する情報が保存されていないことがあ r ますが、その存在をチェックします。これは以下のように移行できます：

```
<Setting Name="IsRegistered">
    <Location Type="registry" SubType="valueexistence">
        HKCU\Software\Crunch\Registered
    </Location>
</Setting>
```

`file` の指定によるファイルの移行

固定位置でのファイルの移行は簡単です：

```
<Setting Name="DataFile">
    <Location Type="file" File="C:\Path\To\File.dat" />
</Setting>
```

可能な限り、**変数** 『52 ページ 』を使用します：

```
<Setting Name="DataFile">
    <Location Type="file" File="%ProgramFiles%\Crunch\File.dat" />
</Setting>
```

`filepath` の指定によるレジストリ内にパスがあるファイルの移行

設定が実際にファイルへのパスである場合、しばしばパスだけなく、ファイルも同様に保存したい場合があります。この場合、`Type="filepath"`属性を`<Setting/>`に追加すると、エンジンがファイルを移動します。レジストリーの値がマップおよび移行され、ファイルが移行されて、適切にマップされた場所へ適用されます。

```
<Setting Name="DataFile" Type="filepath">
    <Location Type="registry" SubType="value">
        HKCU\Software\Crunch\DataFilePath
    </Location>
</Setting>
```

属性	説明	可能な値	必須ですか？
`Name`	設定の名前です。ネストした設定の場合、**認証された名前**は、親の認証された名前、順方向のスラッシュ、そしてその属性の値になります。	a-z、A-Z、0-9、ドット、ダッシュ、および下線の文字だけで構成されるテキストです。スペース文字は使えません。	はい
`Type`	この設定は、単なる文字列とは取扱いが違うでしょうか?値に追加の意	`filepath`、またはなし	いいえ

	味がある場合、Type でその意味を指定できます。		
OSVersion	指定した OS にこれを移行するだけです。複数 OS の場合は、パイプ記号で区切ります。例: Windows95|Windows2000。Any で始まる値は同様に機能します。	Windows2000、WindowsXP、または WindowsVista。AnyWindows はこれらすべてに一致します。	いいえ

子供	最小	最大
<Location/> 『61 ページ 』	0	任意
<Default/> 『62 ページ 』	0	1
<Setting/>	0	任意
<SettingsList/>『62 ページ 』	0	任意

設定場所

<Location/>要素は、設定を保存するディスク上の場所、および保存方法を記述します。

属性	説明	可能な値	必須ですか？
Type	これがどんなタイプの場所かまた、エンジンがどのようにしてそれを見に行こうとしているかを特定します。	file, registry	はい
SubType	その場所のどの部分を使用するか特定します。	上記参照	いいえ
File	Type="file"の場合、移行するファイルを指定します。	ファイルへのパス	いいえ
FileOverwrite	ファイルと同じ名前がすでに存在するファイルを適用する場合、上書きしますか?	適用時に、always は毎回、既存のファイルを保存済みのファイルで上書きします。ifnewer は、保存済みのファイルが移行先のマシンにあるコピーより新しい場合にのみ上書きします。never は、決して既存のファイルを上書きしませんが、移行先マシンにファイルが存在しない場合は、保存済みのファイルを配置します。	いいえ

子供	最小	最大
テキスト：Type によって、テキストの値がパスとして使用されます。	なし	なし

設定デフォルト

指定した<Location/>に何も見つからない場合、エンジンは代わりに<Default/>タグに含まれる値を使用します。ソースマシンのアプリケーションは、外部で定義されたデフォルトの代わりに内部的なデフォルトを使用する場合があります。内部のデフォルト値にはアクセスできず、移行されないので、ターゲットマシンの外部的デフォルト値が上書きされないため、これは設定をターゲットマシンに移動する際に問題を発生させることがあります。<Default/>タグを使用して内部デフォルトを複製することにより、ターゲットマシンにコピーする外部値をソースマシンが提供しなかった場合ても、必ずターゲットマシン上の外部定義された設定が特定の値で上書きされます。

```
<Setting Name="TimeoutInMilliseconds">
    <Location Type="registry" SubType="value">
        HKCU\Software\Crunch\Timeout
    </Location>
    <Default>100</Default>
</Setting>
```

属性	説明	可能な値	必須ですか？
なし			

子供	最小	最大
テキスト：使用する値。親の<Setting/>で宣言されたタイプに変換されます。	なし	なし

SettingsList

<SettingsList/>は、<Location/>のさまざまなサブ部分を列挙して、それらをすべて移行します。これによって、任意の長さのリストを移行したり、パッケージを書くときに名前が不明であるものをグループ化できます。多くの場合、レジストリ/サブキーの場所を使用するほうがよりよく処理できます。ただし、移行に関する値 *(保存するファイルをポイントする値など)* を使用する必要がある場合は、<SettingsList/>が必要です。

<SettingsList/>内では、2 つの特別な変数が使用できます。最初の変数は名前を<SettingsList/>タグと共有します。次の例では%UserDefinedFunctions%です。この場合、指定したキーのそれぞれの値の*名前*を参照します。2 番目の変数（次の例では使用されていない）は最初の変数と同じ名前ですが、接尾辞_value が付きます（例: %UserDefinedFunctions_value%.）。接尾辞_value をもつ変数は、その名前で*保存*されているあらゆるものを参照します。ここでは、それは各キーに関連するデータです。

例

レジストリに保存されているファイルの任意のリストをファイルパスとして保存するには、<SettingsList/>を使用する必要があります。

```
<SettingsList Name="UserDefinedFunctions" Type="value">
    <Location Type="registry" SubType="subkey">
        HKCU\Software\Crunch\User Defined Functions
    </Location>
```

```
        <Setting Name="UDF" Type="filepath">
            <Location Type="registry" SubType="value">
                HKCU\Software\Crunch\User Defined Functions\%UserDefinedFunctions%
            </Location>
        </Setting>
    </SettingsList>
```

属性	説明	可能な値	必須ですか？
Type	何を列挙しますか?	キーまたは値	はい

子供	最小	最大
<Location/> 『61 ページ』	1	任意
<Setting/>『59 ページ 』	0	任意

インデックス